

◎語 學

二〇〇六年の學界展望語學部門は、昨年に引き続き、北九州市立大學大學院外國語學研究科中國語言文化專攻研究室が擔當する。電子メールでのデータ申告にご協力いただいた會員・非會員の方々、抜き刷り等を送って下さった方々に厚くお禮申し上げます。文獻調査にご協力いただいた各大學圖書館に對して、深い感謝の意を表したい。目録作成にあたっては、現物の調査をおこなったほか、國立情報學研究所論文情報ナビゲータOZ<sup>①</sup>および國立國會圖書館NDL<sup>②</sup>OPAC<sup>③</sup>を利用していただいた。採録する文獻の選擇・目録作成作業は佐藤昭があたり、編集・入力作業は、橋本愛氏が分擔してくれた。

目録作成の基準は以下のとおりとした。

- 一、採録範圍は、二〇〇六年一月から二月までに日本國內で刊行された文獻とする。これまでに做って、現代語の教科書類は除外した。論文の形式を採っていないが、情報・議論を含む文章は採録した。なお、二〇〇五年刊行の文獻が第五十八集學界展望(語學)に漏れていた場合は適宜補って、その年次を記した。
- 二、目録の分類は、總記、文字・訓詁、音韻、語彙、語法、方言、教育・學習とする。
- 三、各分類内の配列は、著者・編者・譯者氏名の五十音順による。

文獻の調査には出来るかぎりの注意を拂ったが、當方の不慣れと時間的・人員的制約によって、遺漏・

誤り等が少なからずあるかと思われる。これらについてお気づきの場合は、ぜひご教示くださるようお願いしたい。さらに文獻調査を続け、あるいは會員のご指摘をまっけて、來年度のご擔當校に收載をお願いするつもりである。

單行本

一、總記

相原 茂	講談社 日中辭典	講談社
荒井 幸康	「言語」の統合と分離(1920-1940年代)のモンゴル・ブライヤート・カルムイクの言語政策の相關關係を中心に	三元社
池田 温	日本古代史を學ぶための漢文入門	吉川弘文館(2006年)
編田 温	和辭典 改訂第3版	學習研究社
石井 庄司	大海 知義	岩波書店
寛 久美子	漢語いろいろ	岩波書店
遠藤 光暁	中國語のエッセンス	白帝社
大島 正二	漢字傳來(岩波新書)	岩波書店

江戸の翻譯空間―蘭語・唐話語彙の表出機構(新訂版)

岡田袈裟男 笠間書院

小和田 顯 旺文社漢字典 第2版 旺文社

關西大學アジア文化交 流研究セン ター 《アジア文化交流研究》第1號 關西大學アジア文化交 流研究 センター

近代漢語研 究會編 中國語・中國語學 參考文獻目錄(06 年度版) 近代漢語研究會

工藤 一郎 中國圖書文獻史攷 明治書院

栗林 均 漢蒙對譯語彙集に おけるモンゴル語 の研究 平成16〜17年度 科學研究費補助 金(基盤研究(C)) 研究成果報告書

佐藤 進 全譯漢辭海 第2 版大字版(大きな 活字の) 三省堂

濱口富士雄 中國出土文獻の世 界―新發見と學術 の歴史 創文社

著 淵清 中國の歴史 創文社

高木 智見 中央アジア古文獻 の言語學的・文獻 學的研究―ロシア 學藏未發表文獻の 解明― 平成14〜17年度 科學研究費補助 金(A)研究 成果 報告書

庄垣内正弘 中央アジア古文獻 の言語學的・文獻 學的研究―ロシア 學藏未發表文獻の 解明― 平成14〜17年度 科學研究費補助 金(A)研究 成果 報告書

砂岡 和之  
池田 雅之  
アジア世界のこ  
ばと文化へ世界  
ことばと文化シ  
ズ

東ユーラシ  
アゲンゴ研  
究會  
東ユーラシア  
研究 第1集  
トルファン出  
土佛  
影釋錄  
典の研究 高  
昌殘  
日本人と中國  
人のコミュニ  
ケーショ  
ン―「ちよつ  
と」  
はちよつと：  
ポン  
フェイ博士の  
日本語の  
不思議

石川 九楊  
文字の現在  
現在―その起  
源を  
読み解く(中  
公文  
庫)  
中央公論新社

對外經濟貿  
易大學・商  
務印書館・編  
大活字版 中日辭  
典 第二版  
小學館

藤枝 晃  
日本人と中國  
人のコミュニ  
ケーショ  
ン―「ちよつ  
と」  
はちよつと：  
ポン  
フェイ博士の  
日本語の  
不思議

沖森 卓也  
文字と古代日  
本5  
文字表現の  
獲得  
吉川弘文館

武信 彰  
山田 眞一  
古川 裕  
森 宏子  
武信 彰  
山田 眞一  
古川 裕  
森 宏子  
ポケットプログ  
レッシ  
ブ 中日・日中  
辭典  
小學館

戸川 俊夫  
例解新漢和辭  
典 第3版  
三省堂

桂樹 佑  
漢字に隠され  
たD  
NA暗號  
たま出版

中京大學社  
會科學研究  
所中國の  
文化と社會  
研究プロジェ  
クト編  
中國研究論集  
白帝社

楊 曉安  
中日兩言語の  
比較  
研究―音聲・  
文法・  
語義關係に  
ついて―  
漢文の話(ち  
くま  
學藝文庫)  
筑摩書房

坂詰 力治  
『雅俗幼學新  
書』  
のデータベ  
ース化  
及び唐話辭  
書・對  
譯辭書等と  
の比較  
研究  
研究成果報  
告書  
平成14～17  
年度  
科學研究費  
補助  
金(基盤研  
究  
C)  
研究  
C  
共同通信

中國古籍文  
化研究所  
中國のこ  
とばと文  
化・社會  
佛敎語大辭  
典(縮  
刷版)  
東京書籍

劉 建雲  
中國人の日  
本語學  
習史―清末  
の東文  
學堂  
圖書センタ  
ー

菅原 宏之  
日本の漢字  
(岩波  
新書)  
岩波書店

中文 礎雄  
中村 元  
中國のこ  
とばと文  
化・社會  
佛敎語大辭  
典(縮  
刷版)  
東京書籍

劉 徳有  
日本語と中  
國語  
講談社

白川 靜  
桂東雜記3  
平凡社(2005年)

日本中國語  
檢定協會  
中國語の環  
本(第63號  
―第71  
號)  
日本中國語  
檢定  
協會

阿辻 哲次  
部首の話?―  
もつ  
と漢字を解  
剖する  
(中公文庫)  
中央公論新  
社

白川 靜  
白川靜著作  
集(金  
別  
卷)股文札  
記(金  
文通釋續  
編)  
平凡社

二、文字・訓詁

津崎 幸博  
人名字解  
平凡社

高島 俊男  
お言葉ですが  
が漢字語源  
の筋ち  
が(文春文庫)  
文藝春秋社

張 娜麗  
西域出土文書の基礎的研究―中國古代における小篆・童蒙書の諸相

汲古書院  
文字鏡研究  
會  
今昔文字鏡單漢字15萬年版(CD-ROM)

紀伊國屋書店  
四、語彙  
アパレルウェア  
編集  
千金樂健  
監修  
日中ファッション用語入門  
チャネラー

土屋 秀宇  
なるほど！漢字ワールド「自然」と「生活」から生まれた漢字編

PHP  
三、音韻

王 占華  
中國語常用フレーズ辭典  
光生館

土屋 秀宇  
なるほど！漢字ワールド「人」から生まれた漢字編

PHP

篠原 征子  
中國語常用フレーズ辭典  
光生館

土屋 秀宇  
なるほど！漢字ワールド「動物」と「植物」から生まれた漢字編

PHP

金丸 邦三  
中國語新語辭典  
同學社

藤堂 明保  
漢字の起源(講談社學術文庫)

講談社

吳 侃  
中國語新語辭典  
同學社

成家 徹郎  
古代漢字の研究

大東文化大學人文科學研究所  
(2005年)

孫 邦三  
中國語ことわざ用法辭典  
大學書林

日本エディタースクールの知識

日本エディタースクール出版部

川原 祥史  
中國語警察用語小辭典  
國際語學社

福田 哲之  
戰國秦漢筆記文字の基礎的研究

平成15～17年度科學研究費補助金(C)研究報告書

栗林 均  
『御製滿珠蒙古漢字三合切音清文鑑』モンゴル語配列對照語彙(東北アジア研究センター叢書20)

前田 富祺  
朝倉漢字講座2  
漢字のはたらき

朝倉書店

高 金亮  
中醫基本用語辭典  
東洋學術出版社

野村 雅昭  
漢字の語源から見た居住福祉の思想(居住福祉ブックレット3)

東信堂

李 桓

馬 敏和  
古今各國「漢字音」對照辭典

劉 桂平  
中國語ことわざ集  
國際語學社

武田 信生 日中英 廢棄物用  
何修 品晶 語事典 オーム社

五、語法

吉川 雅之 廣東語初級問題集  
ワックブック香港  
粵語基礎文法I  
(CD付) 白帝社

谷口 雅紹 ハーマン 英日中  
醫學用語語彙典  
イデア出版局  
谷口 雅紹 ハーマン 英日中  
ハーマン 英日中  
人體・解剖用語集  
ルーマンデジタ  
メントターテイ  
メント

生越 直樹 東アジア諸語のカタ  
テゴリ化と文法  
化に關する對照研  
究 | 多様性から普  
遍性へ | 研究  
報告書 (B) 研究成果  
郁文堂

七、教育・學習

張 聰仁 日本語―中國語―  
英語 實踐貿易用  
語辭典(繁體字・  
簡體字併用) 國際語學社

高橋彌守彦 實用詳解中國語文  
法 白帝社

川上眞太郎 定年前の中國語修  
得奮闘記―念願の  
北京留學 文藝社

張 福武 四ヶ國語共通のこ  
とわざ集(日本語・  
臺灣語・英語・中  
國語對照) 慧文社

劉 綺紋 中國語のアスペク  
トとモダリティ 大阪大學出版會

久保田美年 人生を紡ぐ―中國  
語教育に歩んだ七  
十年 文藝社

塚本 慶一 中國語新語ビジネ  
ス用語辭典 大修館書店

六、方言

呼 美蘭 中國語の司法通譯―  
讀んでわかる通譯  
の仕事 白帝社

日經パソコ 日中英對照物理用  
語辭典(普及版) 朝倉書店

秋谷 裕幸 日本吳音の母胎方  
言に關する探索―  
吳語との比較 平成16―17年度  
科學研究費補助  
金基盤研究◎研  
究成果報告書 かんき出版

日中英對照物理用  
語辭典(普及版) 朝倉書店

杉田 欣二 商談の中國語 貿  
易と投資 アスク  
曾我 貴志 中國契約マニユア  
ル―主要契約條項  
の日中對照文例集 中央經濟社

藤本 恆 中日 日中 貿易  
用語辭典 東方書店

戸毛 敏美 中日 日中 貿易  
用語辭典 東方書店

川田 敦子 カタカナで覺える  
上海語(CD付) 明日香出版

文 新語・流行語から  
中國の「今」を見  
る! 國際語學社

趙 怡華 繪でわかる臺灣語  
會話(CD付) 明日香出版

李 榮標 日本語―中國語  
技術・工業用語辭  
典 國際語學社

楊 曉安 白河方言研究 共同文化社(2006  
年)

莫邦富事務 基礎知識と實例  
中國語契約書 ジャパンタイムズ

長谷川正時  
通譯メソッドを應用したシャドウィングで学ぶ中国語  
難譯語500  
中国語慣用句型500  
〔簡装本〕  
中華書店

武 柏索  
日・中・英ファッションビジネス會話對譯ブック  
織研新聞社

村尾 康子  
日中會話翻譯辭典(一)  
読んで面白い! 使って便利!  
三好翻譯社

姚 義久  
日中會話翻譯辭典(一)  
読んで面白い! 使って便利!  
三好翻譯社

論文

一、總記

荒川 清秀  
やっばり辭書がすき(9) (20)

安 美蘭  
日本語、中國語、朝鮮語における感謝表現の對照研究  
日本語教育と異文化理解4(愛知教育大學、2005年)

石崎 博志  
翻刻資料 Barcelo de la Lengua china  
日本東洋文化論集12(琉球大學法文學部)

阿西 微薩  
藏語和阿爾泰語在語法系統上的相似性  
東ユーラシア言語研究1

市川 桃子  
詩人の個性―「芙蓉」「蓮花」「荷花」「蘭菖」「藕花」語による分析  
明海大學外國語學部論集18

伊藤佳奈子  
「胡同」はどのよう  
に漢語の中に取り込まれていったのか  
KOTONOHA 40

伊藤 徳也  
近代中國における文學言語  
漢字圏の近代―ことばと國家(東京大學出版會、2005年)

井上 度亨  
蒙語老乞大テキキスとのローマ字轉寫と和譯(卷之五)  
開篇25

井上 優  
日本語から見た中國語  
日本語學25(3)

井上 了  
中國古典への(二)分析)應用に對する若干の疑問  
中國研究集刊42

今泉潤太郎  
日中文化交流の使節―中日辭典から東亞同文書院から愛知大學へ―  
大倉山論集51(2005年)

岩月 純一  
近代ベトナムにおける「漢字」の問題  
漢字圏の近代―ことばと國家(東京大學出版會、2005年)

于 康  
日本語と中國語  
講座日本語教育と構造(スリーエーネットワーク)

上野 倫代  
民國期の「國語」考察―雑誌「國語週刊」の位置付け―  
一橋研究31(一橋大學大學院)

内田 慶市  
『語言自適集』に關わることから臺灣における言語規範の混亂という問題について―「臺灣國語」の規範化問題を中心に―  
西南學院大學大學院文學研究論集25

有働 彰子  
臺灣史研究會・中國語東アジア諸語研究會の活動  
東ユーラシア言語研究1

遠藤 光曉  
中國人學習者の日本語談話における認識について  
比較社會文化研究20(九州大學大學院)

王 曉梅  
挨拶様式から考察する普遍的な敬意表現―日本語母語話者と中國語母語話者の事例―  
言語コミュニケーション研究6(愛知淑徳大學言語コミュニケーション學會)

王 日輝  
挨拶様式から考察する普遍的な敬意表現―日本語母語話者と中國語母語話者の事例―  
言語コミュニケーション研究6(愛知淑徳大學言語コミュニケーション學會)

海村 惟一  
社會言語學から見た現代中國における言語教育政策  
福岡國際大學紀要15

學界展望(語學) 二〇〇六年一月(十二月)

王 敏東  
日本統治期の臺灣  
での刊行物―日中  
言語交流の資料と  
して  
或問12

大方 高典  
韻文の語彙的解析―  
杜甫の作品を例に  
して  
拓殖大學語學研  
究11

大澤 顯浩  
『時務三字經』に  
ついて  
言語・文化・社  
會4(學習院大  
學外國語教育研  
究センター)

大濱るい子  
王 曉青  
日本と臺灣の言語  
行動對照分析―他  
家での食事時の言  
語行動について  
講座日本語教育  
社會・文化(ス  
リーエーネット  
ワーク)

岡田袈裟男  
異言語接觸と江戸  
言語學  
3 國語と國學83―

岡田 美穗  
太公家教の諸本生  
成と流動  
中京大學文學部  
紀要41(2)

小川 美江  
漢文教材としての  
『搜神記』  
人間文化研究科  
年報21(奈良女  
子大學大学院人  
間文化研究科)

沖森 卓也  
漢字の受容と訓讀  
文字と古代日本  
5(吉川弘文  
館)  
漢字圏の近代―  
ことばと國家  
(東京大學出版  
會,2005年)

生越 直樹  
朝鮮語と漢字

小野 文  
中國語は何に似て  
いるか―フンボル  
ト―文法形式一般  
の性質、特に中國  
語の特性について  
アベル・レミューザ  
氏に寄せる書簡―  
の考察  
アジア文化交流  
研究1(關西大  
學)

金丸 芙美  
返還後の香港にお  
ける言語の行方―  
「兩文三語」政策  
をめぐって―  
東京理科大学紀  
要(教養篇)38

兼本 敏  
琉球における「中  
國語官話集」の比  
較  
南島文化28(沖  
繩國際大學)

曲 志強  
日中日常あいさつ  
表現考察―テレビ  
ドラマの對照比較  
から―  
比較社會文化研  
究19(九州大學  
大學院)

曲 明  
中國語會話モジュ  
ルとCEFRの關  
連づけの試み  
言語情報學研究  
報告14(東京外  
國語大學地域文  
化研究科)

楠山 春樹  
漢語としての藝術  
中日辭典と漢和辭  
典  
國學院雜誌106  
(11)(2005年)

倉島 節尚  
中日辭典と漢和辭  
典  
日中言語對照研  
究論集8

倉田 明子  
バーゼル傳導會所  
藏の中國關連コレ  
クションについて  
附中國語文獻コレ  
クション目録  
アジア文化研究  
32(國際基督教  
大學)

黒田 彰  
太公家教放  
日本敦煌學論叢  
究1(比較文化研  
究所)

黒田 千晴  
グローバル化時代  
における中國の對  
外教育戰略  
留學生教育學  
會

吳 禮權  
八股文章結構形  
式的淵源  
京都外國語大學  
研究論叢17

コ・ヨンジ  
なぜ北朝鮮では漢  
字を廢止したのか?  
言語文化9(2)  
(同志社大學言  
語文化學會)

黃 英哲  
一九五〇年代臺灣  
の「國語」運動―  
中國共產黨の「漢  
語規範化」運動を  
視野に入れて―  
關西大學中國文  
學會紀要27

黃 海湘  
石藤川井 徹也  
中國語への翻字に  
おける漢字選擇の  
手法  
情報處理學會研  
究報告2006(82)

黃 瓊藝  
携帯電話の會話に  
おける開始部と終  
始部―日本人同士  
と臺灣人同士―  
比較研究を通して―  
自然會話分析と  
會話教育―統合  
的モジュール作  
成への模索―(東  
京外國語大學地  
域文化研究科、  
2005年)

黃 仕忠  
讀早稻田大學整理  
本浙東寶卷三種札  
記  
開篇25

黃 力遊  
林 翠芳  
中國語と日本語に  
おける共感覺表現  
についての考察―  
他言語との比較を  
兼ねて  
ポリグロシア12  
(立命館アジア  
太平洋研究セン  
ター)

後藤 淳一  
詞と訓讀  
松浦友久博士追  
悼記念中國古典  
文學論集(研究  
版)

齊藤 正高	現代中國語のテキスト處理について、魯迅「故郷」を例に、Pagan・形態素解析・正規表現を使って	愛知大學情報メディアセンター「紀要16」(2005年)
齊藤 希史	漢文の命脈―古典文から今體文へ	漢字圏の近代―ことばと國家(東京大學出版會, 2005年)
笹原 宏之	〈新刊紹介〉何華珍著『日本漢字和漢字詞研究』	開篇25
佐藤 昭	學界展望(語學) (二〇〇五年一月〜十二月)	58 日本中國學會報
佐藤 信	漢字文化の受容と學習	文字と古代日本5 (吉川弘文館)
地藏堂貞二	レニングラード鈔本『紅樓夢』の言語	滋賀縣立大學國際教育センター「研究紀要11」
志村 和久	漢字字書に望む事ども	東方309
謝 韞	公開中の現代中國語話言葉コーパスの紹介	言語情報學研究報告13(東京外國語大學地域文化研究科)
朱 捷	論語にみる漢字文化の思考	同志社女子大學學術研究年報57
朱 鳳	西洋樂理傳來における「律呂正義」續編の役割と影響―その音樂用語を中心に	或問11
朱 勇	唐通事與漢語言文在在日本的傳播	或問11
周 雲喬	「論」の文體の成立について	國際社會文化研究6(高知大學人文學部國際社會コミュニケーション学、2005年)
徐 一平	中國の言語政策と日本語教育の動向	櫻美林言語教育論叢2(櫻美林大學言語教育研究所)
徐 一平	「熱烈歡迎」の意味論―日本語と中國語における感情移入について	月刊言語35(5)
徐 孟鈴	依頼會話の【終結部】の考察―日本人・臺灣人・臺灣人上級學習者の接觸場面のロールプレイングデータを比較して	言葉と文化7(名古屋大學大學院)
肖 勇	漢字の應用から見た日中文化の異同	札幌國際大學紀要37
聶 莉莉	鮮族研究から漢語を考える	中國21<2005>(愛知大學現代中國學會)
庄垣内正弘	ウイグル文字表記された漢文佛典と漢字音の再構	中央アジア古文獻學的的研究・ロシア所藏未發表文獻の解明
沈 國威	黃遵憲的日語・梁啟超的日語	或問11
鈴木 英夫	聖書の翻譯を通じた日中語の交流	白百合女子大學キリスト教文化研究論集7
鈴木 基子	張愛玲『對照記』の校勘―本人手稿コピー版と中國・臺灣の出版書との比較研究	中國語言文化論叢8(東京外國語大學中國語言文化研究會)
鈴木 義昭	〈報告〉日中對照研究の可能性	研究紀要一般教育・外國語・保健體育52(日本大學經濟學部)
鈴木 聰	となりの漢字嫌い	早稻田大學日本語教育研究6(2005年)
住野 朋彦	朝鮮本『增續會通韻府群玉』四種―考補正	月刊言語35(8)
住吉 信餘	依頼に對する「斷り」の言語行動に對して―日本人と臺灣人の大學生の比較	藝文研究91(1)(慶應義塾大學藝文學會)
施 信餘	「早稲田大學日本語教育研究6」(2005年)	早稲田大學日本語教育研究6(2005年)
石 汝杰	馮夢龍編『山歌』の校注問題	海外事情研究34(1)(熊本學園大學)
關場 武	「四書字引」とその周邊	藝文研究91(1)(慶應義塾大學藝文學會)
瀬戸口律子	琉球官話課本『學官話』兩種抄本的比較	外國語學研究7(大東文化大學外國語學研究科)

孫 軍悅	翻譯研究理論に關する考察―中國語譯『ノルウェーの森』の分析を通して―	言語情報科學4 (東京大學總合文化研究科言語情報科學專攻)	竹越 孝	『重刊老乞大』と『重刊老乞大諺解』における異同について	KOTONOKHA 42	谷口 知子	『美理哥合省國志略』の四年香港版は誰の手によるものか―「美」と「合衆國」を手がかりに―	關西大學中國文學會紀要27
孫 寧寧	近二十年中西方文章標記效應研究總述	COSMICA35	竹越 孝	『至元譯語』校異	KOTONOKHA 43	田村 新	王力『separat』西洋言語學理論受容の一事例	人文學報374 (首都大學東京中國文學研究室)
高島 敏夫	(追悼文) 思い出の中の白川先生とこれからの白川文字學	學林44 (中國藝文研究會)	竹越 孝	『朴通事新釋』と『朴通事新釋諺解』における異同について	KOTONOKHA 45	千葉 謙悟	納破里中華書院藏『三字經』について	中國古籍文化研究4
高橋 優子	日本人と中國人のコミュニケーションシヨン方略に關して―『謝罪行爲』に注目して―	文化外國語専門學校日本語課程紀要18 (2005年)	竹中佐英子	日本のニュースの中國語譯について(書評) 野間文史著『十三經注疏の研究その語法と傳承の形』	日中言語對照研究論集8	張 穎	依頼のストラテジーに關する日中對照研究	共生時代を生きる日本語教育…野田鶴子先生古稀記念論集(凡人社、2005)
高橋 優子	日中の謝罪のコミュニケーションシヨン方略に關する一考察―「補償」の行爲の申し出と行爲の實行狀況―に着目して―	異文化コミュニケーションシヨン8 (異文化コミュニケーション(2005年))	田中 信一	中華人民共和國における文字改革の推移日誌(その6)	語學研究112 (拓殖大學)	張 玉潔 馬青均	英語を介した日中對譯辭書の自動構築	國立民族學博物館調查報告物(2) (2005年)
竹越 孝	朝鮮司譯院の漢學書『象院題語』について	汲古48 (2005年)	田中 信一	中華人民共和國における文字改革の推移日誌(その7)	語學研究113 (拓殖大學)	張 公瑾	中國僑族與國境外近親民族的語言和文字―歴史、現狀和前途―	國立民族學博物館調查報告物(2) (2005年)
竹越 孝	『老朴集覽』と『翻譯老乞大・朴通事』の編纂順序	東ユーラシア言語研究1	田中 友愛	感謝表現の日・臺對照研究―「定型表現」と「定型表現」以外のストラテジー―の使用を中心に―	日本語・日本文化研究16 (大阪外國語大學日本語講座)	張 紅濤	言語コミュニケーションの日中比較―シヨンの日中比較―日本語の言語表現の特徴についての考察	異文化コミュニケーションシヨン論集4 (立教大學大學院)
竹越 孝	『老朴集覽』に見られる吏語について	KOTONOKHA 41	谷口 龍子	日本語と中國語における依頼の丁寧度	社會科學ジャーナル57 (國際基督教大學)			



張南薰	同形語（日本語・中國語）翻譯の問題	日本語文化研究7（日本語文化研究會 2005年）	湯艷	中國と日本における「數字」文化の比較―諺と慣用語を中心に―	佐賀女子短期大學研究紀要40	白應鎮	中國ツングース諸語の親縁關係	東アジア研究45（大阪經濟法科大學東アジア研究所）
張蓓	「ダーグー・ゲイ」から始まった息子の言葉	月刊言語35（9）	董慧穎	現代中國語における敬語的表現	千葉大學社會文化科學研究12	嶋三輝子	中國語との同形語について―中國人の日本語學習者を對象として―	言語コミュニケーション研究6（愛知淑徳大學「愛知淑徳大學」シヨン學會）
陳穎	漢語聽力理解中的作用ある文化圖の活用	明海大學外國語學部論集18	陶琳	戲劇中的道歉語方略	中國語教育4（中國語教育學會）	潘伊久美鈞	時間認識は言葉にどう表れるか	月刊言語35（5）
陳姿菁	日臺の電話會話における新たなタインの開始―あいつの開始の有無という観点から―	日本語教育論集15（2005年）	中川明子	發話におけるキラクタの日中對照	現代中國語研究8	水野善寬	關西大學中國語デジタルコンテンツの現状	或問11
陳瑞紅	日本語と中國語の敬語表現―吉本ばななの作品とその翻譯を題材に―	人間文化研究科年報21（奈良女子大學人間文化研究科）	中島隆博	鬼を打つ―白話、古文そして歴史	漢字圏の近代―ことばと國家（東京大學出版會 2005年）	馮戰兵	通過偏誤分析看日本語的影響	梅光學院大學・女子短期大學部論集39
陳明涓	臺日接觸場面におけるトピックの提示・グループ討論を資料として	共生時代を生きる日本語教育…田鶴子先生上野記念論集（凡人社、2005）	西川孝雄	汪維輝編北京中華書局刊『朝鮮時代漢語教科書叢刊』について	愛知學院大學人間文化研究所報32	平田昌司	しゃべるな―危険―17―20世紀中國の女の言葉	漢字圏の近代―ことばと國家（東京大學出版會 2005年）
陳島節力衛	19世紀英華字典5種解題	或問11	任衛平	（研究ノート）言葉にみる中日兩國の文化的差異	九州國際大學國際關係學論集2（1）	平野和彦	（研究ノート）日中英言語對照に係る試論―村上春樹著『ねじまき鳥クロニクル』の表現をめぐって	山梨國際研究1（山梨縣立大學國際政策學部）
杜英起	簡述中日漢字文化的異同	愛知淑徳大學論集「コミュニケーション」シヨン學部篇―5（2005年）	野原將揮	戰國楚簡における「宋人・南人」をめぐる	KOTONOHA 46	古川徹	書の腕法について	愛知論叢81（愛知大學學院院生協議會）
陶安あんど	古文字學の狙いは、古文字に在らず―董珊博士の學問理念	アジア・アフリカ言語文化研究所通信18（東京外國語大學）	萩谷祥子	日本語の呼びかけ「はい」に對する中國語に對する	中國古籍文化研究4	古屋昭弘	「官話」と「南京」について―メソ国際學術研討會」に参加して	開篇25

平 靜	日中のポジティブ・ ボライトネスの對 照研究―日本語と 中國語の談話分析 を通して―	比較社會文化研 究20(九州大學 大學院)
本 田 道夫	日本語・満州語の 辭書作成のための 補助システム(Ⅳ)	香川大學經濟論 叢78(4)
松尾 良樹	古代日本語の中 の中國語	「古代日本の言 語文化」(奈良 女子大學21世紀 COEプログラム 報告集7)
松下 達彦 Marcus Palt 玉岡賀津雄	中國語「單語」を 知っていることは 日本語漢字語の發 音學習に役立つか？	中國語、韓國語 及びトルコ語を 母語とする日本 語學習者の日本 語語順の習得
村田雄二郎	漢字圏の言語	漢字圏の近代― ことばと國家 會(東京大學出版 會, 2005年)
楊 晶	中國語會話におけ る相つちの使用に ついての研究―發 話權交替の觀點か ら―	櫻美林言語教育 論叢2(櫻美林 大學言語教育研 究所)
楊 敏	間接的言語行為と しての「自己表出 表現」における日 中對照―「かな」 を中心として―	早稲田大學日本 語教育研究8
吉田 文子	吳聲西曲における 雙關語の構造―比 喩表現との比較に おいて―	お茶の水女子大 學中國文學會報 25(お茶の水女 子大學中國文學
吉原 英夫	漢文教育文獻目錄	札幌國語教育研 究11(北海道教 育大學)(2005年)
四方扶紗江	老舍《駱駝祥子》 (修訂版)に見る 言語修正	外國語學研究7 (大東文化大學 外國語學研究科)
ラマール・ クリスティー ン	地域語で書くこと― 客家語のケース (1860―1910)	漢字圏の近代― ことばと國家 會(東京大學出版 會, 2005年)
李 基東	古代東アジア史料 の世界	古代文字史料の 中心性と周縁性 (春風社)
李 炫淨	日本語・中國語・ 韓國語における慣 用表現の特徴の一 考察―「死」を表 す間接表現及び程 度を表す比喩表現 を中心に―	日本語・日本文 化研究12(京都 外國語大學留學 生別科)
李 國棟	『雪國』の日英中 對照研究―第一段 落を中心にして―	廣島大學大學院 文學研究科論集 65(2005年)
李 天暘	日・中における謝 罪言語表現の一研 究	STUDIES33 (大阪外國語大 學大學院生室 協議會)
梁 藤 弘 鑫	日中兩語における あいさつ言語行動 の對照研究―出會 いの場面を中心に―	中國言語文化論 叢8(東京外國 語大學中國言語 文化研究會)
梁 桂 熟	中國における分類 件名―體化的研究― 『中國分類主題詞 表』の成立と特徴	日本圖書館情報 學會誌52(2)
林 敏潔	中國語における女 性呼稱について― 「婦女」と「女性」 の同時代分析と その歴史的な變遷 を中心に―	44 國學院大學紀要
若林 正文	臺灣の近現代と二 つの「國語」	漢字圏の近代― ことばと國家 會(東京大學出版 會, 2005年)
鳥居克之教授略歴 及び主要業績	關西大學外國語 教育研究9(2005 年)	
二、文字・訓詁		
阿辻 哲次	現代日本の漢字規 格	大谷學報86(1)
井上 史雄	讀めない漢字	日本語學9月號
尹 幸舜	『書評』小林芳規著 『角筆文獻研究導 論(上卷・中卷・ 下卷・別卷)』	日本語の研究2 (4)
遠藤 織枝	フロンティア日本 語教育と中國女文 字と	日本の科學者41 (7)
大橋 由美	讀段注 助辭ノ一 ト(二)	44 國學院大學紀要
大橋 由美	助辭說管見	二松學舍大學論 集49

大橋 由美	文字學階梯(3) 字1その①「形聲」について	新しい漢字漢文教育42(全國漢文教育學會)	笹原 宏之	漢字コード問題	講座社會言語科 學2メディア2 (ひつじ書房、2005年)	高久 由美	鮭字考	縣立新潟女子短期大學研究紀要
大橋 由美	文字學階梯(4) 字1その②「會意」について	新しい漢字漢文教育43(全國漢文教育學會)	志村 和久	字解とは何か	汲古49	高田 智和	「新しい文字」の發生とその要因	日本語學8月號
鹿島 英一	漢字系文字の字形配置	地域文化研究3 (2005年)	志村 和久	漢字の共時論的研究	汲古50	田熊 清彦	則天文字	文字と古代日本 5(吉川弘文館)
鹿島 英一	北方系擬似漢字の集合論—契丹小字を中心に—	地域文化研究4	朱 瑞平	孫詒讓金文研究論略	金澤大學中國語學中國文學教室紀要9	竹越 孝	『翻譯老乞大』に見られる墨書について	KOTONOHA 40
加納 喜光	埤雅の研究・其九 釋木篇(一)	茨城大學人文學部紀要人文學科論集45	徐 時儀	《一切經音義》引《說文》考	開篇25	田中 和夫	(書評)野間文史著『十三經注疏の研究—その語法と傳承の形—』	人文社會科學論叢15(宮城學院女子大學)
加納 喜光	埤雅の研究・其十 釋木篇(二)	茨城大學人文學部紀要人文學科論集1	角 知行	漢字イデオロギーの構造—リテラシーの観点から—	社會言語學6	田中 和夫	サンズイとイトヘンはどのくらい漢字の意味に影響するか	中國語、韓國語及びトルコ語を母語とする日本語學者の日本語順の習得
鈴木 千春	埤雅の研究・其十 釋木篇(二)	ニゲーション学 科論集1	洲脇 武志	『後漢書』李賢注所引「前書音義」考	大東文化大學漢學會誌45	玉岡賀津雄	觀智院本『類聚名義抄』に複数記載される漢字の比較—「千祿辭書」から引用された漢字を對象として—	小林芳規博士喜壽記念國語學論集(汲古書院)
顧 明耀	(八公開講演録)中國の「漢字」と日本	廣島女子大學文 20(2005年)	清格爾・胡 樹	モンゴル文字概説	地域文化研究所 報告7	田村 夏紀	大東文化大學漢學會誌45	大東文化大學漢學會誌24
黃 華珍	奈良興福寺藏舊鈔《經典釋文》殘卷再考	岐阜聖德學園大學紀要(外國語學部編)45	關 清孝	『墨子閒詁』における「爾雅」の活用	大東文化大學漢學會誌45	田村 夏紀	大東文化大學中國學論集24	大東文化大學中國學論集24
黃 紅	日中における現代漢字の比較、問題點といくつかの提案	愛知縣立大學大學院國際文化研究科論集7	關 清孝	『譯注』黃侃「爾雅略說」訓注(四)	大東文化大學中國學論集24	田村 夏紀	大東文化大學中國學論集24	大東文化大學中國學論集24
興水 優	日本と中國の漢字施策をめぐって	日本語學9月臨時増刊號	善如寺俊幸 樹	「目」の漢字系統	東京外國語大學留學生日本語教育センター論集32	チュー・トゥ エット・ラ	漢字・チュノム研究所とベトナムの漢字・チュノム遺産の収集・保管・研究・開發・普及	地域文化研究5 (2005年)
兒玉 憲明	陳暘孟子訓義校釋(一)	新潟大學言語文化研究11	高久 由美	釋段補說—「段」および関連盛食器類—の器種分類	縣立新潟女子短期大學研究紀要42(2005年)	張 娜麗	西域發見の文字資料「五」—各所分藏の接合可能文書三種	學苑71平成十八年九月號(昭和女子大學)
小林 茂	「蔑曆」雜考	人文科學11(大東文化大學人文科學研究所)	高久 由美	釋段補說—「段」および関連盛食器類—の器種分類	縣立新潟女子短期大學研究紀要42(2005年)	張 娜麗	西域發見の文字資料「五」—各所分藏の接合可能文書三種	學苑71平成十八年九月號(昭和女子大學)

張 莉 「中國古代における「色彩」に関する文字の考察」  
歴史文化社會論  
講座紀要3(京  
都大學大學院)

野原 將揮 『上海博物館藏戰國楚竹書研究(四)』「逸詩」における「奴」字の簡略化について  
KOTONOHA 48

吉池 孝一 「パスパ文字の由来——「」など」  
書史會表パスパ文字母表のeなどについて  
KOTONOHA 41

津崎 幸博 嶽父白川靜との仕事「人名字解」刊行にあたって  
月刊百科520

野間 文史 五經正義讀解通論(二)  
邊字考  
KOTONOHA 47

吉池 孝一 至元譯語のpとγについて  
民國期(1928年)における或るパスパ文字判讀の試み  
KOTONOHA 43

寺井 泰明 100の物語—漢字「百」の字形  
悠久100(2006年)

萩庭 勇 出土古文獻復元に  
おける字體分析の  
意義—上博楚簡の  
分篇および併合・  
編聯を中心として—  
大東文化大學漢  
學會誌45

吉池 孝一 中國周邊の漢字關  
連文字について  
KOTONOHA 48

戸内 俊介 「寸」字成立の背景とその後の展開  
中國出土資料研究10

福田 哲之 戰國楚簡研究2006  
(大阪大學中國  
哲學研究室)

吉池 孝一 中國周邊の漢字系  
文字  
KOTONOHA 49

中島 敏夫 『尚書』〈大禹謨〉「人心」十六字僞作説について(2)

藤井 茂利 地蔵菩薩本願經研究—口訣校異—  
福岡大學研究部  
論集A・人文科  
學編5(4)

李 承律 王國維の豫言と中國出土資料研究  
創文492

永田 英正 張家山漢簡「二年律令」の字體について  
の所感  
長江流域文化研究  
所年報4

松村 一徳 巴蜀青銅器文化における文字  
孫詒讓の「古今字」  
富山大學人文學  
部紀要44

三、音韻

中村 雅之 パスパ文字漢語研究の黎明—19世紀西洋人の研究  
KOTONOHA 46

森賀 一恵 孫詒讓の「古今字」  
〈資料〉古辭書を  
めぐる謎—部首シ  
ステムの變遷理由  
材の研究51—4

契丹文字墓誌にお  
ける漢語借用語の  
音系の基礎—金啓  
孫先生逝去二周年  
に寄せて—  
立命館言語文化  
研究18(1)

南 豐鉉 古代韓國における漢字・漢文の受容と借字表記法の發達  
小林芳規博士喜  
壽記念國語學論  
集(汲古書院)

山田 健三 漢字文化研究年  
報1  
歴史文化社會論  
講座紀要3(京  
都大學大學院)

烏拉新 愛羅 契丹文字墓誌にお  
ける漢語借用語の  
音系の基礎—金啓  
孫先生逝去二周年  
に寄せて—  
立命館言語文化  
研究18(1)

西山 尚志 『周易』中の「亨」字について  
人文科學11(大  
東文化大學人文  
科學研究所)

山元 宣宏 書體の名稱はいっ  
成立したのか  
歴史文化社會論  
講座紀要3(京  
都大學大學院)

秋谷 裕幸 日本吳音の母胎  
方言に關する一  
探索—吳語との  
比較

野原 將揮 『上海博物館藏戰國楚竹書研究(四)』「相邦之道」  
「合文・待時」字  
形考察  
KOTONOHA 47

横山 詔一 見聞違いはなぜ起  
こる  
日本語學4月號  
月刊言語35  
(10)

秋谷 裕幸 日本吳音の母胎  
方言に關する一  
探索—吳語との  
比較

いしるのぞ	韻鏡内外轉訣疑	長崎總合科學大學紀要46(2)	大野 敏明	世界の漢字音	古今各國「漢字音」對照辭典(慧文社)	神鷹 徳治	三たび『文集』は「もんじゅう」か「ぶんしゅう」か   同音衝突と同音回避の現象から	松浦友久博士追悼記念中國古典文學論集(研究出版)
むしるのぞ	倭字内外轉札記	長崎總合科學大學紀要47(1)	岡本 勳	周祖謨「禪母古音考」の方法   經籍異文と訓詁の利用	中京大學文學部紀要40(3・4)	KANG Eunji	A Phonetic Study of Retroflex in Mandarin Chinese	中國古籍文化研究4
伊藤 正晃	現代中國語の二音節語における第二音節の動態	多元文化6(名古屋大學)	岡本 勳	周祖謨による中國上古音韻の研究	中京大學文學部紀要41(1)	許 征	京劇小生韻白聲調實驗分析   「姜派」小生爲例   從中古山咸攝在《音韻正訛》中的影響	多元文化5(名古屋大學, 2005年)
井野 口孝	善珠『因明論疏明燈抄』所引『玉篇』佚文攷	國語文字史の研究8(和泉書院, 2005年)	岡本 勳	周祖謨による敦煌資料の研究   敦逸音・毛詩音・楚辭音等について	中京大學文學部紀要41(2)	高 永安	唐代近體詩平仄的生成變化規律	外國語學研究7(大東文化大學外國語學研究所)
岩田 憲幸	《新定考正音韻大全》音節總表	龍谷紀要28(1)	小倉 肇	『七音略』『韻鏡』の構造と原理(I)	日本文藝研究58(1)(關西學院大學日本文學會)	黃 易青	『七音略』『韻鏡』の構造と原理(II)	外國語學研究1(東ユーラシア言語研究)
臼田眞佐子	(翻譯)周斌武著・清代古韻學	愛知大學語學教育研究室紀要言語と文化14	小倉 肇	『七音略』『韻鏡』の構造と原理(III)	日本文藝研究58(2)(關西學院大學日本文學會)	孔 祥卿	彝語「哎哺」與漢語「陰陽」	ちくま427(筑摩書房)
臼田眞佐子	顧炎武『音學五書』訪書記	愛知大學文學論叢134(開學六十年記念特輯)	小倉 肇	漢字音と日本語の構造と原理(III)	日本文藝研究58(3)(關西學院大學日本文學會)	興膳 宏	漢詩のリズム	築島裕博士傘壽記念國語學論集(汲古書院, 2005年)
遠藤 光暁	『翻譯老乞大・朴通事』に存在する注音・用字上の内部差異について	KOTONOHA 38	小倉 肇	漢字音と日本語の構造と原理(III)	朝倉日本語講座2(朝倉書店, 2005年)	小助川貞次	上野本漢書楊雄傳天曆二年點における切韻と玉篇の引用について	佛敎大學總合研究所紀要13
王 曉東	Tone Recognition of Continuous Mandarin Speech Based on Tone Nucleus Model and Neural Network	情報處理學會研究報告2006(136)	肥沼本 克明	漢字音と日本語の構造と原理(III)	朝倉日本語講座2(朝倉書店, 2005年)	齊藤 隆信	『龍施菩薩本起經』の有韻偈頌と漢譯者について	印度學佛敎學研究55(1)
廣 啓吉	情報處理學會研究報告2006(136)		尾山 慎	萬葉集における撥音韻尾字音假名について   連合と略音	萬葉196	齊藤 隆信	鳩摩羅什の詩と『大智度論』の偈	小林芳規博士喜壽記念國語學論集(汲古書院)
張 頌松	情報處理學會研究報告2006(136)		加藤 大鶴	音調のグルーピング   『醫心方』吳音系字音二字漢語を資料として	國語と國文學83(1)	齊藤 隆信	鎌倉時代の日本漢音資料における濁聲點加點について	
大岩本幸次	金・王文郁『新刊韻略』について	人文研究57(大阪府立大學文學部研究科)				佐々木 勇		
大阪大學中國文學研究室編	成化本『白兔記』押韻表	成化本『白兔記』の研究(汲古書院)						

佐々木 勇	古代漢字音の受容と展開	文字と古代日本5 (吉川弘文館)	住谷 芳幸	廣韻・韻鏡データベース	岐阜女子大學紀35	丁 鋒	慧琳音義轉錄改訂(2) (熊本學園大學)	海外事情研究33
佐々木 勇	改編本『類聚名義抄』と三卷本『色葉字類抄』の漢音	訓點語と訓點資料11 (訓點語學會)	關 光世	未付加型疑問文のイントネーションに関する観察―正反タイプを中心に―	京都産業大學論集人文科學系列34	富平 美波	郝敬「五聲譜」研究序説	アジアの歴史と文化10 (山口アジア歴史・文化研究会)
佐藤 昭	中原官話における中古入聲字の聲調調類(上)	北九州市立大學外國語學部紀要115	全 昌煥	日本吳音の聲調について―『唐韻四聲正』との比較を中心に―	新潟大學國語國文學會誌48	中木 愛	白居易の音楽描寫における「音」の要素の盛り込み方	白居易研究年報7
佐藤 浩一	仇兆鰲『杜詩詳註』の音注について―一萬を超す音注が意味するもの―	日本中國學會報58	孫 慶華 廣瀨 啓吉 顧 文涛 (他)	音調核モデルに基づく中國語のPATTERNの2段階生成	電子情報通信學會技術研究報告105 (572)	中澤 信幸	「轉圖字書」の發生と盛典―『韻鏡』研究における理論と實用―	名古屋大學國語國文學99
更科 慎一	現代アムドチベツト語による『乙種本』四番館雜子の朗讀に對する音聲的分析	山口大學文學會志56	孫 在賢	『訓蒙字會』のアクセント	東京大學言語學論集25	中村 雅之	Edkinsの記した19世紀の北京音	KOTONOHA 38
澤田 達也	『玉篇』水部所収反切對照表	SPUDJUM33 (大阪外國語大學學院生室協議會)	竹越 孝	前開本『象院題語』のハンゲル音注について(上)(下)	KOTONOHA 38・39	中村 雅之	唇齒音[t]をめぐる隨想	KOTONOHA 40
清水 史	中古漢語音韻學史小考	人文學論叢8 (愛媛大學人文學會)	千葉 謙悟	「廣」讀音の音韻對應上の例外について―日中言語文化交流の観点から―	中國語學253	中村 雅之	翻譯老乞大朴通事の左側音の入聲表記について	KOTONOHA 41
清水 政明	ベトナム語の子音連續―その變化過程への漢字音要素配列の影響	東ユーラシア言語研究1	趙 志剛	19世紀における沖繩語の子音の口蓋化―破擦音化について―漢字資料「琉球譯」を中心に	廣島大學大學院教育學研究紀要54 (2)	中村 雅之	翻譯老乞大・朴通事の輕聲について	KOTONOHA 43
鋤田 智彦	東洋文庫所藏『重刊老乞大諺解』の入聲字に對しての傍點について	中國古籍文化研究4	津熊 良政	日本語、英語、中國語における單語レベルの音間比較研究概観	「立命館法學」別冊「ことばとそのひろがり(4)」	中村 雅之	近世音資料における果攝一等(舌齒音)の扱	KOTONOHA 45
鋤田 智彦	『四聲通解』における崔世珍「按」	開篇25						

中村 雅之	エドキーンズの漢語音韻史研究	KOTONOHA 47	水谷 誠	湯澤 質幸	水谷 誠	松浦友久博士追悼記念中國古典韻書を使ったのか「刊謬補缺切韻」を一つの指標として	松浦友久博士追悼記念中國古典韻書を使ったのか「刊謬補缺切韻」を一つの指標として
中村 雅之	トマス・ウェイドの北京語表記「o」の音注について	KOTONOHA 49	平田 直子	湯澤 質幸	平田 直子	漢字の音一文字複数を中心として近世韻學における吳音漢音の分類と韻鏡、律、文、雄、中日の語彙と文法・語義との關係	朝倉漢字講座2 漢字のはたらき
沼本 克明	無窮會本大般若經音義の音注について	築島裕博士傘壽記念國語學論集(汲古書院、2005年)	平山 久雄	湯澤 質幸	平山 久雄	河野六郎博士の「第一口蓋音化」説について	東ユーラシア言語研究1
沼本 克明	吳音直讀資料に於ける四聲點の加點の諸相	小林芳規博士喜壽記念國語學論集(汲古書院)	平山 久雄	楊 曉安	楊 曉安	松浦友久博士追悼記念中國古典文學論集(研文出版)	松浦友久博士追悼記念中國古典文學論集(研文出版)
野原 將揮	上古音「侵部」「冬部」をめぐる	KOTONOHA 49	平山 久雄	高楊 曉安	高楊 曉安	曖昧な構造を區別する上で潜在的韻律作用	北海道文教大學論集7
肥爪 周二	濁音標示・喉内鼻音韻尾標示の相關 觀智院本類聚名義抄を中心にして	訓點語と訓點資料116(訓點語學會)	古屋 昭弘	楊 春宇	楊 春宇	社會言語學の視點から見た清代漢語音と日本近世漢語の研究 近世唐音交流についての一斷層	社會システム研究4(北九州市立大學大學院)
日比野高宏	「兼滿漢語滿洲套話清文啓蒙」の尖團區別について	KOTONOHA 39	古屋 昭弘	楊 春宇	楊 春宇	黃檗宗唐音と鎌倉宋音の關係試論	北九州中國言語文化研究論集14
平井 勝利	現代中國語のストレスアクセントに關する考察	愛知新城大谷大學研究紀要3	星野 朱美	劉郡 仁悅	劉郡 仁悅	中國・上海の學習者による日本語の音の知覺と學習 「説明」と「反復練習」の學習效果	日本語研究26(東京都立大學・首都大學東京)
平田 昌司	黃公紹傳考	日本中國學會報 58	水谷 誠	西郡 仁悅	西郡 仁悅	中國語の聲調と關西アクセントの對照的研究 關西アクセントにおける聲調性の考察	徳島大學國語國文學19
平田眞一郎	入唐僧智聰が傳えた唐代長安方言の聲調について	中國古籍文化研究4	水谷 誠	蘭 巍	蘭 巍	白居易近體詩韻字考 杜甫近體詩韻字との比較を通して	中國學の十字路 加地伸行博士古稀記念論集(研文出版)

盧 嘉  
大脳のトップダウン處理に注目したイントネーション研究 | 中・日對照 | Chinese Onomatopoeia and Ideophones: Some Descriptive and Theoretical Issues  
9 (筑波一般言語學研究會)

植田 均  
現代方言に繼承された《醒世姻緣傳》の同音假借の場合(下)  
中國語研究 48

小川 郁夫  
《現代漢語詞典》における輕聲語とアル化語  
元代の日用類書『居家必用事類』にみえる回回食品「緩和表現」視點から見る「困る」の用法 | 中國語との比較を試みて | 『日本一鑑』の注釋的研究  
無差 13 (京都外國語大學)  
東洋學報 88 (3)

Waching End Mok  
顧炎武「五方之音說」とその批判 | 毛奇齡・錢大昕の所説を中心に | Chinese and Ideophones: Some Descriptive and Theoretical Issues  
人文論究 75 (北海道教育大學函館人文學會)

植田 均  
現代方言に殘存する《醒世姻緣傳》中の複音節形容詞 (1)  
奈良産業大學紀要 22

郭 艶平  
「緩和表現」視點から見る「困る」の用法 | 中國語との比較を試みて | 『日本一鑑』の注釋的研究  
駒澤國文 42 (駒澤大學, 2005年)

渡邊 大  
顧炎武「五方之音說」とその批判 | 毛奇齡・錢大昕の所説を中心に | 中國文化 | 研究と教育 | 64 (中國文化學會)

植田 均  
現代方言に殘存する《醒世姻緣傳》中の複音節形容詞 (2)  
奈良産業大學紀要 22

片山 晴賢  
『日本一鑑』の注釋的研究  
關する對照研究 | 日中韓の人名詞に親族名稱を中心に | 三重大學國際交流センター紀要 創刊號  
澤大學, 2005年)

四、語彙

赤平 惠里  
改革解放後の新語における日中同形語に関する考察 | 使用例からみた差異 | 中國古籍文化研究 4

王 敏東  
新漢語と藥名 | 臺灣における醫學用語の一環として | 言語文化研究 14 (徳島大學總合科學部)

許山 秀樹  
詩語としての「悲」と「哀」 | 唐代までの詩の用例を中心に | 日本語、中國語、朝鮮語における呼稱の對照研究 | 非親族への呼稱的用法をめぐって | 日本語教育と異文化理解 4 (愛知教育大學國際教育學會, 2005年)

赤平 惠里  
改革解放後の新語における日中同形語に関する考察 | 使用例からみた差異 | 藝文研究 90 (慶應義塾大學藝文學會)

蘇 敏東  
從「瘟疫」到「鼠疫」 | 中日疾病名稱考源 | 北陸大學紀要 30  
或問 11

金 敬雄  
中日兩言語との比較から見た朝鮮語の漢字語 | 等級別國語教育用語彙を中心に | 國際文化研究 12 (東北大學國際文化學會)

伊藤加奈子  
中國語の「偶然」に関するノート | 人文科學論集 (文化コミュニケーション) 40 (信州大學人文學部)

大西 智之  
日中同形異義語三則 | 「行李」 | 「丈夫」 | 「大家」 | 大手前大學社會文化學部論集 5 (2005年)

栗林 均  
モンゴル語・漢語・滿州語三言語對照語彙  
東北アジア研究センター叢書 20 (東北大學)

于 克勤  
中國語「吃」を用いた慣用語の特徴に関する考察 | 聖母女學院短期大學研究紀要 35

小川阿佑美  
中國語における外来語の多様性 | 中國語研究 40

荊 玲  
中國語ネット用語の構成をめぐって | 下關市立大學論集 49 (3)



玄 幸子	『佛説天地八陽神咒經』の言語特徴について	西北出土文獻研究 <sup>3)</sup>	佐藤 晴彦	同義語の變遷—— 「田地」「地面」をめぐって——	神戸外大論叢 56 (7) (2005年)	沈 國威	近代西方新概念的詞彙化——「陪審」爲例——	アジア文化交流研究 1 (關西大學)
胡 士雲	中國語の親族名稱(含父色)について	四天王寺國際佛教大學紀要 43	柴田知津子	植物の採取に関する動詞について	明海大學大学院應用言語學研究科紀要應用言語學研究 8	沈 國威	《辭源》與現代漢語新詞	或問 12
吳 大綱	中國語の中の外来語——音譯か意譯かそれとも音譯か意譯のミックスか——	梅花女子大學文化表現學部紀要 2 (2005年)	周一農	説校園歌後語	中國語研究 48	角谷 聰	古代漢語における着衣動詞	中國學研究論集 16 (廣島中國文學會)
黃 秋萍	日中形容詞の相違について	文明 21 16 (愛知大學國際コミュニケーション學會)	周 錦樟	林橋考	アカデミア文學・語學編 79 (南山大學)	龜田 龍一	中國語固有名詞探索システムの試作	電子情報通信學會技術研究報告 106 (297)
黃 當時	古代日本語の船舶の名稱における外来語の要素について——龜甲(古事記)中卷、神武天皇)を中心に——	文學部論集 90 (佛教大學)	周 錦樟	阿里不達考	アカデミア文學・語學編 80 (南山大學)	曹 志偉	中國語熟語の分類方法について	愛知淑徳大學論集——コミュニケーション學會——
兒島 慶治	《中間はずれの日本字體!》	愛知産業大學日本語教育研究所紀要 <sup>3)</sup>	周 振鶴	美利堅合衆十國、還是合十衆國? ——《周禮》「任人」解	學習院女子大學紀要 8	竹越 孝	『至元譯語』漢語語彙牽引	KOTONOHA 46
崔 善花	日本語・中國語・韓國語の基準語彙の近似度	北海道大學大学院文學研究科研究論集 6	徐 剛	關於古典文獻中的異形詞研究問題	或問 11	竹越 孝	『至元譯語』漢語語彙牽引(改訂版)	KOTONOHA 49
酒井恵美子	日中對照研究の可塑性——加熱動作を表す語彙を例に——	『中國研究論集』中京大學社會科學研究所中國の文化と社會研究プロジェクト	鐘 敬華	明清白話小説詞語札記	神田外語大學紀要 18	竹越 孝	甲種本『華夷譯語』漢語語彙牽引(上)(下)	KOTONOHA 47・48
笹原 宏之	漢語はなぜ字源通りに用いられないのか	國文學解釋と教材の研究 51 (4)	田 照軍	單語「蜈蚣」について——歴史的變化における一考察——	中國語研究 48	張 家綾	日中翻譯における同形語についての考察	對照言語學研究 15 (2005年)
			白川 實子	(書評) 學術性與工具性俱在的近代漢語研究力作——《明清小説俗字俗語研究》評介	中國語研究 48	張 堅	現代中國語における日本語からの外来語	外國語教育論集 28 (筑波大學外國語センター)
			沈 懷興			張 筱平	關於現代中國社會軍事詞語泛化的思考	文明 21 16 (愛知大學國際コミュニケーション學會)

趙晴

生活語彙としての自然地理用語の中日比較と指導上の問題点(4) | 平原・高原に関する語 |

中村 喬

中國料理史に於ける『爰』再考 | 元代増補『事林廣記』に據って |

馮 志偉

Semantic and phonemic loanwords in the Chinese language (中國語における意味語と音譯語)

陳 贊

基督教用語「天主」について | その成立について |

野原 律子

新語(外來語)の形成 | 用語を資料として |

馮 志偉

The structure of Chinese loanwords (中國語における借用語の構造)

陳 力衛

近世漢語の重層性について | 對譯資料「唐音和解」(一七一一六)を中心に |

橋爪 阿美

中西地理學知識及地理學詞彙的交流 | 艾儒略『職方外紀』的西方原本 |

ル フバート

モンゴル語近代語彙登場の母體 | 『蒙語報』誌(五) | 近代語彙の抽出・分類及び存廢の時代別考察 |

陳 力衛

『雪中梅』の中國語譯について | 明治新漢語傳播の媒介としての役割 |

橋本美和子

漫畫の効果音としての擬態語の | 中日對照研究 |

陳 力衛

日本の諺・中國の諺 | 9 | 20 |

早川 文代

留學生教育 | 10 | 2005年 |

彭 廣陸

中日語彙比較への「視點」 | いわゆる「類素語」を中心 |

椿 正美

羅什譯『法華經』の語學的研究 | 何について |

菱沼 透

日本文學研究 | 93 | (日本文學研究會、2005年) |

孟 增野 子敏

近代漢語における女性を指す人稱代名詞「奴」について | 實験音學と一般言語學 | 城生 | 伯太郎博士 | 還曆 | 記念論文集 | (東京堂出版) |

鄭 海燕

中日兩言語の慣用語について | 對照研究 | 「氣」を表すものを中心に |

馮 志偉

人稱代詞「我」 | 「你」の代替形とその選擇について | Standardization of Chinese scientific loanwords (中國語における科學用語の標準化) |

松本 秀士

世界の(外來語)の諸相 | (國立國語研究所、2005年) |

唐 焯

日本書紀における中國口語起源二字動詞の訓點 |

陶 藝

訓點語と訓點資料 | 16 | (訓點語學會) |

松本 秀士

ホブソン(合信)にみる解剖學的語彙について | 人體解剖學の專門書『全體圖微』の解剖學用語について |

中村 浩一

「方便」について |

大東文化大學紀要 | 44 | (人文科學)

松本 秀士

世界の(外來語)の諸相 | (國立國語研究所、2005年) |

水落いづみ  
動作動詞の「中対照研究」つまむと「捏」  
日本語教育センター紀要2(日本學生支援機構)

宮嶋 純子  
中國における「Ch'a」の譯語「浮屠」を中心に「謝靈運の詩における「媚」字

森野 繁夫  
萬葉集漢語考證補正(一)卷十七の漢文から

山崎 福之  
中國語類義語の差異や互換性

兪 稔生  
中國語類義語の差異や互換性

兪 鳴蒙  
(研究資料)中國語表現ノート(5)

羅 工洙  
近世・近代における中國語の指示代名詞「這般」の受容について

李 美香  
日・韓・中の語彙比較から見た韓國漢語

瀧 惠子  
《新譯大方廣佛華嚴經音義》與《新譯華嚴經音義私記》之詞彙比較研究

梁 曉虹  
アカデミア文學・語學編79(南山大學)

林 嵐  
芥川「支那游記」における「英雄」・「豪傑」

盧 守助  
梁啓超の日本觀—新語彙と新文體を中心に—  
現代社會文化研究35(新潟大學現代社會文化研究科)

井上 一之  
「身」の一人稱代名詞説をめぐって

井上 優  
日本語から見た中國語

井上 優  
日本語と中國語の「變化」の表現

井上 優  
受動文の比較對照—日本語と中國語の場合—

伊伏 啓子  
19世紀の西洋人による中國語研究—テンスとアスペクトについて—

今井 敬子  
中國語の語りにおける知覺動詞の用法について

池田 晉  
指示語句の指示機能と指示屬性

伊藤 さとみ  
「無論…都…」構文について

伊藤 大輔  
把構文における二用法の再検討

松浦友久博士追悼記念中國古典文學論集(研究出版)

日本語學3月號

東アジア諸語のカテゴリ化と文法化に關する對照研究—多樣性から普遍性へ—

東アジア諸語のカテゴリ化と文法化に關する對照研究—多樣性から普遍性へ—

千里山文學論集(關西大學大學院)

人文論集(靜岡大學文學部・言語文化學科)研究報告(1)

言語と文化(關西學院大學言語教育研究センター)

エクス言語文化論集4(關西學院大學經濟學部)

中國語の補語

中國語學253

中國語學253

中國語言文化論叢8(東京外國語大學中國言語文化研究會)

「V下」的語義擴展機制與結果義

五、語法

上野 恵司  
試析葉聖陶作品的語法和詞彙的特點  
文學藝術29(共文化研究所)

字都 健夫  
「就是」と「只是」補足注釋機能について  
中國語學253

鶴殿 倫次  
「了」と相對的過去—中國語のアスベクト(1)  
愛知縣立大學外國語學部紀要38

Ekatrina  
CHIRKAVA  
& Christine  
LAMARRE  
The paradox of the construction [Vzai NPLOC] and its meanings in the Beijing dialect of Mandarin  
東アジア諸語のカテゴリ化と文法化に関する對照研究—多様な「普遍性」へ—  
中國語學253

袁 毓林  
論「連」字句的主觀化表達功能—兼析幾種相關的「反預期」和「解—反預期」格式  
中國語學253

王 亞新  
中國語の「有字句」の擴張式について  
東洋大學人間科學總合研究所紀要5

王 亞新  
狀態補語「V得C」的語義與句法特徵  
中國語の補語(白帝社)

王 學群  
「了」再考—「達界」說の有効性をめぐって  
日中言語對照研究論集8

王 學群  
日本語の「Vてくる」と中國語の「V來」  
中國語の補語(白帝社)

王 忻  
中國人學習者に見られるヴォイスのカテゴリにおける誤用をめぐって  
國文學解釋と鑑賞71(7)

王 群  
《醒世姻緣傳》「渾身」副詞用法的形成  
中國語研究48

王 克西  
「x hay ga NP da」構文と「の」はN P對「構文」に関する對照の一考察  
外國語教育論集28(筑波大學外國語センター)

王 志英  
「〜起來」と「〜下來」の比較について  
沖繩大學人文學部紀要7

王 志英  
中國語の「起來」についての意味分析  
中國語研究48

王 志英  
「下」について  
沖繩大學人文學部紀要8

王 周明  
明清期における「有」字比較文の成立  
中國語學253

大島 吉郎  
構造助詞「地」の解釋をめぐって—「樣態化接辭」說—  
語學教育研究論叢23(大東文化大學語學教育研究所)

大島 吉郎  
動詞重疊型に關する通時的研究(八)に—  
大東文化大學紀要44(人文科)

大田 榮次  
中國語の被害の意味をあらわさない「被」字句  
言語研究の射程(湯川恭敏先生記念論集)(ひつじ書房)

大瀧 幸子  
中國語形容詞「決」を用いた命令表現の考察—日本語の形容詞命令文と比較した場合—  
金澤大學文學部論集言語・文學26

賈 黎黎  
否定文に用いられる「一」の用法をめぐって—中日對照の立場から—  
北陸大學紀要30

樂 耀  
試論現代漢語字組「X有」的詞彙化傾向  
現代中國語研究8

片桐光知子  
現代中國語における助動詞「會」と「能」の意味分析—一般的な能力を表す場合を中心に—  
多元文化6(名古屋大學)

片桐光知子  
「會」と「能」の使用分け—一般的な能力を表す場合を中心に—  
日中言語對照研究論集8

勝川 裕子  
主語・賓語間の領屬關係と照應形式  
中國語教育4(中國語教育學會)

加藤 晴子  
日中對譯コーパスにみる「來」「去」と「くる」「いく」の對照狀況  
明海大學學院應用言語學研究紀要應用言語學研究8

加藤 宏紀  
現代中國語の二重目的語構文とヴォイス構文における「授與」と「取得」  
神奈川大學言語研究28

加納 希美  
動量詞句とりたて構文のシNTAXと意味  
中國語學253

神谷 博  
試論現代漢語「V」式重疊形容詞  
愛知學院大學語研紀要31(1)

河村 靜江  
「日中兩言語における他動性について」  
同志社女子大學同誌文學研究紀要6

管 娟娟	“有+VP”句探析	中國語研究48	惠 婷	中國語に見られるフラクタル構成	國際文化研究12 (東北大學國際文化學會)	崔 玉花	中國語結果構文と直接目的語制約と英語・日本語結果構文との比較を通じて	筑波應用言語學研究13
木村 英樹	“的”字句の句式意義及“的”字的機能擴展	東アジア諸語のカテゴリ化と文法化に関する対照研究1多様性から普遍性へ1	玄 幸子	現代中國語文法化理論による近世語の態 (Voice) の分析	關西大學外國語教育研究11	崔 春愛	中國語における“也”について1 關連性理論の観点から1	昭和女子大學大学院言語教育・コミュニケーション研究1
木村 英樹	北京話“給”字句擴展爲被動句的語義動因	東アジア諸語のカテゴリ化と文法化に関する対照研究1多様性から普遍性へ1	胡 俊	日本語と中國語の指示詞についての対照研究1文脈指示用法の場合1	地域政策科學研究3 (鹿兒島大學人文社會科學研究科)	澤田 浩子	描寫に關する個とステレオタイプ1 談話から見る中國語の“存現文”1	シリーズ言語對照(外から見る日本語)2 言語に現れる「世界」と「世界」(くろしお出版)
許 慧	二つの文を結びつける“是:的”	言語研究の射程1 湯川恭敏先生記念論集(ひつじ書房)	丁 淑相	“述結+有+數量”結構1 和“有”的主觀大量義	現代中國語研究8	時 衛國	比較+被修飾語+量性成分	愛知教育大學研究報告55 人文・社會科學編
許 慧	中國語(武漢方言)における代名詞“它”の用法	熊本大學言語學論集ありあけ5	岡上 良寛	Phrase-Representation Summarization Method for Chinese	情報處理學會研究報告2006年(94)	史 形嵐	“玩個痛快”“忙得個不亦樂乎”類補語考察	中國語教育4 (中國語教育學會)
姜 春枝	中國語の“了”と日本語の“了”との比較1 “了”の日譯を中心にして1	東アジア日本語教育・日本文化研究9	吳 凌非	中國語文型「動詞+了+X+了」について	滋賀縣立大學國際教育センター1 研究紀要11	史 形春	試析“才+形容詞+呢”句式	中國語研究48
喬 全生	晉方言表空間位移的“V+X+來/去”結構	現代中國語研究8	黃 春玉	因果關係からみた受動表現1 日中對照の立場で1	日中言語對照研究論集8	史 彤春	“怪……的”と“挺……(的)”について	中國學志噓噓號 (大阪市立大學)
金 京淑	日中朝の可能表現に關する對照研究1 許可・許容の意味を中心にして1	北海道大學大學院文學研究科研究論集6	高 芑	中國語の指示代詞“這”“那”の虛化について	多元文化6 (名古屋大學)	C.-T. James Huang	Resultatives and Parametric View	中國語學253
Yoshihiro Kubo	Category and Case Mismatches in Coordination	福岡大學研究部論集A:人文科學編6 (5)	高 芑	中國語の指示詞“那”の機能分析1 觀念指示という立場から1	ことばの科學19 (名古屋大學言語文化研究會)	島津 幸子	“大”と“小”の語用論的機能	九州中國學會報44
Fumio Mohri			高 芑	“A就B”形式の構文的意味	お茶の水女子大學中國文學會報	島津 幸子		25
Takeshi Usuki			高 芑			島津 幸子		
Rai Tai			高 芑			島津 幸子		

下地早智子  
中國語の條件表現  
條件文における  
「J」の分布と意  
味  
（『ろしお出版』）  
シリーズ言語對  
照（外から見  
る日本語）6  
件表現の對照  
（『ろしお出版』）

周 日安  
指別式同位句與謂  
詞隱含  
中國語研究 48

徐 一琳  
主題構文の中日對  
照「Xは」と  
中國語の相當表現  
の異同  
（『九州大學言語學  
會』）

徐 佩玲  
中國語における  
名詞句の全稱量化  
について  
（『九州大學言語學  
會』）

徐 莉  
（研究ノート）中  
國語の「アスペクト」  
表現「在」「呢」  
「着」について  
（『九州大學言語學  
會』）

邵 永海  
上古漢語中「如」  
若「是」此「組合」  
變的句法功能及其演  
變  
（『中國語中國文化  
3（日本大學）』）

蔣 可心  
動詞重疊與動詞重  
疊的誤用  
（『縣立新潟女子短  
期大學研究紀要  
42（2005年）』）

蔣 千苓  
「ほうがいい」の  
人稱制限について  
中國語の「最好」  
との比較を中心に  
（『國際文化研究12  
（東北大學國際  
文化學會）』）

朱成庄  
鳳英  
同社  
程度副詞と形容詞・  
動詞との呼應關係  
についての研究  
中國語の「越來越  
」と日本語の「越  
々」を  
中心に  
（『愛知學院大學教  
養部紀要53（3）』）

正野 留加  
中國語の無標複文、  
有標複文の成立條  
件について  
（『九州中國學會報  
44』）

正野 留加  
逆說複文における  
無標、有標の成立  
條件  
（『北九州中國言語  
文化研究論集14』）

申 亞敏  
中國語の自他と結  
果表現類型—日本  
語・英語との對照  
から—  
（『景山太郎篇『レ  
キシコンフォーレ  
ジ書房』2005年）

申 亞敏  
中國語の結果複合  
動詞の語形成  
（『言語情報學研究  
報告12（東京外  
國語大學地域文  
化研究科）』）

沈 力  
漢語的基本事象與  
體貌標記  
（『現代中國語研究  
8』）

鈴木 誠  
『水滸傳』に見ら  
れる「こ」に  
ついて  
（『中國研究14（麗  
澤大學中國研究  
會）』）

須藤 秀樹  
語彙アスペクトか  
らみた現代漢語の  
動詞分類について  
（『言語情報學研究  
報告9（東京外  
國語大學）』）

須藤 秀樹  
（研究ノート）現  
代漢語の動詞重疊—  
V了V形式を構成  
していない動詞類に  
ついて—  
（『言語情報學研究  
報告11（東京外  
國語大學）』）

盛 文忠  
『書國』の中國語  
譯から見る日中兩  
言語の認知的差異—  
句型・主語・動詞・  
數量詞の使用を中  
心に  
（『日本認知言語學  
會論文集6』）

盛 文忠  
日本語の主語と中  
國語の主語はどう  
違う？  
（『月刊言語35（5）』）

石 毓智  
狀態與動詞的概念  
距離及其分布  
（『現代中國語研究  
8』）

薛 嘉蕙  
臺灣國語の「有」  
の意味—「完了」  
の用法について  
（『東京大學言語學  
論集25』）

戰 慶勝  
日本語の移動動詞  
と中國語の「強  
」の對照  
研究  
（『東アジア日本語  
教育・日本文化  
研究9』）

戰 慶勝  
「好」字考—試論  
漢日語中「好」字  
的語義特徵和語法  
特徵  
（『國際文化學部論  
文集7（3）（鹿  
兒島國際大學）』）

蘇 英霞  
行為或事件的性質  
與詞語搭配的選擇  
限制  
（『中國語言文化論  
叢8（東京外國  
語大學中國言語  
文化研究會）』）

孫 薇  
連體修飾節の「V  
的N」と「V的  
N」構文の「V的  
」  
（『名古屋大學言語  
學論集21（名古屋  
大學文學部言語  
學研究室）』）

戴 浩一  
靜態空間關係在中  
文句法的呈現  
（『現代中國語研究  
8』）

戴 耀晶  
漢語否定句肯定句  
的對比分析  
（『中國語教育學  
會』）

高橋彌守彦	時間副詞について	語學教育研究論叢23(大東文化大學語學教育)	張	國憲	補語的句位義探索—關於非可控義—	中國語の補語(白帝社)
高橋彌守彦	時間副詞とその日本語譯について	日中言語對照研究論集8	張	小鳳	日本語と中國語の繼續表現について	上越教育大學國語研究19(2005年)
高橋彌守彦	位置移動の動詞「過」とその連語について	中國語の補語(白帝社)	張	敦夫	1人稱複數代名詞における除外と包括の對立—平江方言を中心として—	言語情報學研究報告11(東京外國語大學)
高山 乾忠	中日言語の表現量詞選擇の思考(1)	長崎ウエスレヤン大學地域總合研究所研究紀要4(1)	張	盛開	「算」的語義、語用特點及語法偏誤分析	言語文化研究26(1)(松山大學)
竹越 孝	『象院題語』の語彙と語法	中國語研究48	張	全眞	「算」的語義、語用特點及語法偏誤分析	言語文化研究26(1)(松山大學)
竹中佐英子	從認知語言學的角度解釋現代漢語語法	日白大學文學・言語學研究2	張	佩茹	「只見」の接續機能	中國語學253
趙守 正寬	中國語と日本語の主題表現比較—「是」と「は」	地域學論集2(3)(鳥取大學地域學部)	張	猛	論現代漢語動詞「到」的語義語法特點—漢字形義關係和漢語教學—	京都女子大學人文論叢54
玉地 瑞穂	言語類型論から見た日本語と中國語の對照研究—「對」命題モダリティと「對」對象モダリティ	山口大學教育學部研究論叢3(藝術・體育・教育・心理)(2005年)	張	黎	漢語位移句的語義組合	現代中國語研究8(白帝社)
玉地 瑞穂	中國語のモーダルマーカーの文法化に關する一考察—「應該 yīngdāi」と「要 yào」の例—	高松大學紀要45	張	黎	漢語的動相—從補語問題談起—	中國語の補語(白帝社)
單 文垠	中國語のアスペクト助詞「着」とそれに對應する日本語表現に關する考察	北陸大學紀要29(2005年)	張	亦文	白話作品に見る動量詞「趨」使用方言檢證のマーカールとして—	中國語學253
張 恆悅	量詞の重ね型(〇)について—認知言語學の視點から	現代中國語研究8	張	亦文	試析「是不是」句式	文教大學文學部紀要20(1)
張 慧欣	「別1」「別2」「別3」と「和」について—「ないよう」に關する用法について	倉敷藝術科學大學紀要11	張	懿德	中國語制御(コントロール)文における空主語處理について	九州大學言語學院人文科學研究報告11(東京外國語大學)
張 恆悅	量詞の重ね型(〇)について—認知言語學の視點から	現代中國語研究8	張	懿德	中國語制御(コントロール)文における空主語處理について	九州大學言語學院人文科學研究報告11(東京外國語大學)
張 恆悅	量詞の重ね型(〇)について—認知言語學の視點から	現代中國語研究8	張	懿德	中國語制御(コントロール)文における空主語處理について	九州大學言語學院人文科學研究報告11(東京外國語大學)

學界展望(語學) 二〇〇六年一月〜十二月

田 禾	董 秀芳	董 芳	豐嶋 裕子	鳥井 克之	長尾 光之	中司 梢	中根 綾子	中根 綾子	中根 綾子	中原 裕貴
「着」字句の否定 情況考察	漢語定中式複合詞 的内部構成及限制	人稱詞に關する中 日對照研究—對稱 詞を中心にして—	「誰讓咱們是朋友 的？」という文に ついて	中國語の構文分析 法	中國語における文 末疑問助詞の變遷	時間・空間表現の 日中比較—「前 」後」を中心とし て	現代中國語におけ る動趨式の一否定 形式「走不進去」	動作と出現—現代 中國語の動趨式が あらわす二つの意 味	動趨式「走進來」 の有標形式「走了 進來」	介詞《在》+場所 所詞《構造》+中 位置と文法的機能 について
中國文化—研究 と教育—64(中 國文化學會)	現代中國語研究 8	德島大學國語國 文學19	東海大學紀要外 國語教育センター 26	關西大學外國語 教育研究9(2005 年)	行政社會論集19 (2)(福島大學 行政社會學會)	北九州中國言語 文化研究論集14	人間文化論叢8 (お茶の水女子 大學大學院)	人間文化論叢9 (お茶の水女子 大學)	お茶の水女子大 學中國文學會報 25	「Foreign」(上 智大學—般外國 語教育センター)
成戸 浩嗣	南部 まき	西 香織	西山 猛	能勢 梅子	野田 耕司	橋本 愛	原次 由起子 常次 莉恵	パルデン・ ブラシアン	李ト 清梅 堀江 薫	平山 邦彦
「看到」、「見到」 の使い分け(その 2)	Edkinsの「官話 文法」における Tenseについて	中國語における (倒置)指定コピュ ラ文の考察	早期白話における 場所を表す疑問代 名詞の歴史的變遷	從《史記》《水滸 傳》的比較看使動 句的發展	中國語單音節形容 詞の連用修飾用法 について	中國語A B B型形 容詞に見られる意 味範疇についての 考察	「能背得動」、「背 得動」、「能背動」 の違いについて	主觀性のタイポロ ジー—日・英・韓・ 中・マラータイ— 語における受動表 現の對照を通して—	中國語の問接疑問 文	中國語の問接疑問 文
愛知學泉大學コ ミュニティ政策 學部紀要9	千里山文學論集 75(關西大學大 學院)	中國語學253	東ユーラシア言 語研究1	神戸市外國語大 學研究科論集9	文學・言語學論 集13(2)(熊 本學園大學)	北九州中國言語 文化研究論集14	現代中國語研究 8	月刊言語35(6)	日中言語對照研 究論集8	日中言語對照研 究論集8
平山 邦彦	藤田 絲恵	古川 裕	任米 麗英 方 韻	彭 飛	彭 飛	彭 飛	彭 飛	彭 飛	彭 飛	彭 飛
中國語の「S+ V+Q」形式につ いて—文全體が疑 問文となる場合を 中心に—	現代中國語「被」 受動構文の動作主	中國語構文の認知 的特徴	日中使役表現にお ける對照分析	中國語と日本語に おける數量詞の對 照研究	中國語と日本語の 對照研究が抱える 諸問題(4)—中 國語の「(状態) 文と「V+形」容詞 (補語)の構文に 用いられる形容詞 をめぐって	中國語と日本語の 對照研究が抱える 諸問題(5)—中 國語と日本語の形 容詞の對照研究の形 容詞の注意点をめ ぐって—	中國語と日本語の 對照研究が抱える 諸問題(5)—中 國語と日本語の形 容詞の對照研究の形 容詞の注意点をめ ぐって—	中國語と日本語の 對照研究が抱える 諸問題(5)—中 國語と日本語の形 容詞の對照研究の形 容詞の注意点をめ ぐって—	中國語と日本語の 對照研究が抱える 諸問題(5)—中 國語と日本語の形 容詞の對照研究の形 容詞の注意点をめ ぐって—	中國語と日本語の 對照研究が抱える 諸問題(5)—中 國語と日本語の形 容詞の對照研究の形 容詞の注意点をめ ぐって—
拓殖大學語學研 究111	國學院大學紀要 44	えくす・おりえ んて13(大阪外 國語大學言語社 會學會)	德島大學國語國 文學19	愛知産業大學日 本語教育研究所 紀要3	京都外國語大學 研究論叢LXVI 號	無差13(京都外 國語大學)	無差13(京都外 國語大學)	無差13(京都外 國語大學)	無差13(京都外 國語大學)	無差13(京都外 國語大學)







蘭	梅	探討現代漢語量詞的表現色彩以修飾人物名詞的數量詞爲中心	流通科學大學論集・社會・自然編18(3)
林	彬	日中兩言語における使役構文の對應關係に關する考察―中國人學習者の誤用分析を中心に―	日本語・日本文化研究12(京都外國語大學留學生別科)
林	立梅	『X給YVP』構成についての一考察	中國語學253
路	玉晶	中國語指示詞の文脈指示についての再考―日本語指示詞コンアへの對應と關連して―	吉備國際大學社會學部研究紀要16
郭呂	曉兆 沛格	方位詞「里」的角度考察	現代中國語研究8
盧	濤	漢語助動詞使用錯誤分析	人間科學研究1(廣島大學總合科學研究所)
盧	濤	漢語助詞使用錯誤分析	廣島外國語教育研究9(廣島大學)
呂	雷寧	使用範圍から見た日中兩言語の可能表現	ことばの科學19(名古屋大學言語文化研究會)
Ryuichi Washio		Unaccusativity and East Asian Languages and Prospects	中國語學253

六、方言

渡邊ゆきこ	(研究ノート)「臺北國語」の文法的特徵	沖繩大學人文學部紀要7
秋谷 裕幸	日本吳音と中國南方方言の比較に關するいくつかの問題―吳語との比較を中心に―	日本語の母胎方言に關する一探索―吳語との比較
淺井 澄民	周振鶴・游汝杰著『方言と中國文化』域外方言と中國文化の傳播―	外國語學研究7(大東文化大學外國語學研究所)
荒木 典子	『金瓶梅詞話』基礎方言研究概況	中國古籍文化研究4
植屋 高史	貴州荔波話中年層的聲韻調	東ユーラシア言語研究1
遠藤 雅裕	臺灣客家語の表記システムについて	人文研紀要56(中央大學)
遠藤 光暁	子音連續と單子音の中間段階としての二重調音―青海省共和縣・興海縣のアムドチベット語と漢語方言を例として	東ユーラシア言語研究1
王 健	江淮方言若干語法特點說略	開篇25
王 彦	山東梁山方言音系	神戸市外國語大學(アジア言語論叢6)
王 淑霞	文登、榮成方言的幾個語音問題	神戸市外國語大學(アジア言語論叢6)
大嶋 廣美	中國江西省武寧縣澧溪方言同音字表	マテシス・ウニウエルサリス7(獨協大學外國語學部)
大田 齋	『媳婦』が關わる民間語源三題―中國語西北方言の例を中心に―	神戸市外國語大學(2005年)
大田 齋	瑞安湖嶺方言音系	神戸市外國語大學(アジア言語論叢6)
大西 博子	漢語方言單音形容詞重疊後綴的地理分布及類型	開篇25
大西 博子	漢語方言における重疊型形容詞接尾辭の「子」について	近畿大學語學教育部紀要6(2)
奥谷 道弘	臺灣で使われる中國語の特徴に關する一考察―閩南語と標準中國語の「有」の使い方を比較して―	天理インターカレッジリサーチ研究所論叢13(2005年)
溫昌衍 美姬(續)	客家方言本字舉例	開篇25

郭 沈青 甘肅秦安五營方言音系 開篇25

郭 風嵐 河北宣化方言音系 開篇25

川澄 哲也 漢語西寧方言の聲調・聲調體系、および連讀變調に関する考察 東ユーラシア言語研究 1

顏 峰 山東郟城方言詞綴研究 開篇25

工藤 早恵 廣西三江六甲話的量詞簡介 開篇25

吳 波 安徽樅陽方言音系 開篇25

佐藤 直昭 上海方言の程度副詞「瞎」(xiao) 中國文學研究 32 (早稲田大學中國文學會)

更科 慎一 廣西壯族自治區三江縣の漢語方言「土拐話」の音韻的特徴 東ユーラシア言語研究 1

朱 一星 上海方言音連讀變調の統語的特徴(上) 京都外國語大學研究論叢 161

周 剛 上海話的語氣詞「咪」 明海大學教養論文集 自然と文化 18

徐 越 浙江杭嘉湖方言音韻特點 開篇25

莊 初升 一百多年前新界客家方言的方位詞「里」 開篇25

鈴木 博之 四川省チベット族の言語を表記する

石 汝杰 江蘇吳江盛澤方言音系 文學・言語學論集 13(2) (熊本學園大學)

牛曾 曉諭 廣西三江六甲話的兩字組連讀變調 東ユーラシア言語研究 1

孫 宜志 桐城方言的語音特點及其歸屬 東ユーラシア言語研究 1

田口 善久 ミャオ・ヤオ諸語の名詞類別ストラテジー 東ユーラシア言語研究 1

竹越 孝 青海共和話音系簡介 愛知縣立大學外國語學部紀要 38

竹越美奈子 翻譯 Cantonese Primer (4) 開篇25

竹越美奈子 粵語方言俗字「嘸」の歴史 KOTONOKHA 48

田中 智子 美濃客家語類別詞 東ユーラシア言語研究 1

千葉 謙悟 『西蜀方言』音節表 開篇25

張 盛開 平江方言の類別詞について 東ユーラシア言語研究 1

張 盛開 湖南平江各地方言の基礎語彙 中國古籍文化研究 4

張 盛開 湖南平江各地方言的語音・詞匯特徵 開篇25

張 盛開 平江方言の「虛義動詞」について

陳 順益 臺灣語の特殊方向表現「來去」(Lai Hui) について 東ユーラシア言語研究 1

陳 麗雪 莆仙方言古次濁聲母的演變 中國語學 253

鄧 享璋 福建省沙縣蓋竹話同音字彙 開篇25

董 淑慧 河北孟村方言的主觀量標記・兒尾和子尾 現代中國語研究 8

永井 崇弘 上海方言《安樂個屋》中的人稱代詞・新教著作中的人稱代詞之特點 福井大學教育地域科學部紀要 第1部 人文科學・國語學・國文學・中國學 編 57

中川 裕三 方言から見る漢語の漢語諸方言におけるブタの類別詞について 中國 21(1) 25 (愛知大學現代中國學會)

中川 裕三 漢語諸方言におけるウマの類別詞について―禽獸類別中心に― 『方言地圖とその解釋』(1) (平成16年18年) 年度科學研究費基礎研究(B) 研究成果報告書 1 (第2分冊)

富永 清美 故折井英治氏藏臺灣統治初期言語資料「軍隊憲兵用臺灣語」臺灣語について 國語國文學報 64 (愛知教育大學)

張 盛開 報告情報學研究 12(東京外國語大學地域文化研究科)

馬鳳如	中國北方漢語方言的罵詈研究	山口縣立大學大 學院論集7	熊進	成都方言における機能語としての「說」(2021)	早稻田大學大學 院文學研究科紀 要51(2)	明木茂夫	中國語版『電車男』譯文研究―その教養外國語への應用―	中京大學教養論 叢46(4)
麥耘	廣州話疑問語氣系統概述	開篇25	熊進・大 澤邦由	成都方言における「之」の副詞化	中國古籍文化研 究4	泉敬史	中國語教室からの報告と検討	文化と言語65 (札幌大學外國 語學部紀要)
原瀨隆司	蘇州語の音調	大東文化大學紀 要44(人文科 學)	楊壁苑	《粵西十縣市粵方言調查報告》懷集話語料補正	開篇25	尾崎見立 荒見泰則 尾崎惠子 尾崎紀夫	第8回明海大學大學院應用言語學研究科セミナー「インテグレーション・コミュニケーション・アプローチ(CA)」の功罪―日中英語學教育の視點から	明海大學大學院 應用言語學研究 科紀要應用言語 學研究8
潘心瑩	聲調分布から見た臺灣語の韻律的特徵	言語學論叢25 (筑波大學)	横田文彦	1950年代と1980年代香港新聞廣告文に含まれる廣東語表現	中國文學研究32 (早稻田大學中 國文學會)	泉敬史	中國語教室からの報告と検討	文化と言語65 (札幌大學外國 語學部紀要)
糜華菱	沈從文作品中的方言民俗考釋	湘西8(沈從文 研究)	劉勳寧	山西永和方言同音字表	文藝言語研究言 語篇49(筑波大 學大學院)	泉敬史	中國語教室からの報告と検討	文化と言語65 (札幌大學外國 語學部紀要)
樋口勇夫	呼和浩特方言における單字調および「輕聲」を伴う二音節語の調形	名古屋學院大學 論集言語・文化 篇17(2)	劉子瑜	試論粵方言「V到C」程度述補結構的歷史來源	中國文學論集35 (九州大學中國 文學會)	板井美佐	第2言語(日本語)作文における第1言語(中國語)の關與―移動の視點からのデイスコース分析―	東京國際大學論 叢言語コミュニ ケーション學部 編2
樋口勇夫	西寧方言における單字調および「輕聲」を伴う二音節語の調形	名古屋學院大學 論集言語・文化 篇17(2)	連秀瑩 金發	閩南語感嘆句式初探	中國語學253	板井美佐	第2言語(日本語)作文における第1言語(中國語)の關與―移動の視點からのデイスコース分析―	東京國際大學論 叢言語コミュニ ケーション學部 編2
平田眞一郎	丹陽方言の連讀變調について	早稻田大學大學 院文學研究科紀 要51(2)	廖大國	一些容易被誤釋的江淮方言詞語	中國語研究48	今井俊彦	中國語學習における「3C」教材の活用について	立教大學ランゲ ージセンター紀 要16
Manho Kwok	香港粵語引用マーカー「話」とその文化化	言語情報科學4 (東京大學總合 文化研究科)	林虹瑛	臺灣閩南語における日本語からの音譯借用語―臺灣語梧棲方言を中心に―	中國古籍文化研 究4	岩本眞理	中國語授業業實態についての調査報告―一年生前期の授業―	中國學志噓噓號 (大阪市立大學)
三浦雅也	貴州黔南勃波方言・中年層の音韻體系について	中國古籍文化研 究4	盧建	西北方言雙及物結構的地域特徵及構式的語言化策略	現代中國語研究 8	岩本眞理	中國語授業業實態についての調査報告―一年生前期の授業―	中國學志噓噓號 (大阪市立大學)
三木夏華	上海方言の「VP 拉個」について	東ユーラシア言 語研究1				上田なおみ	中國語授業の實踐と考察	大阪千代田短期 大學紀要35
村上嘉英	日本統治時期における臺灣語歌謠曲の漢字表記	中國文化研究22 (大理大學國際 文化學部)						

七、教育・學習

植村麻紀子  
初級段階で扱う「方向補語」について  
(中國語教育學會)  
中國語教育4

劉王 淑虹  
留學生寫作偏誤分析  
中國語研究48

王和 順洪  
日本中國語教育的道路  
山梨國際研究1 (山梨縣立大學國際政策學部)

王 佩民  
中國語の發音の新しい學び方―中國語1入門班のための發音勉強法の研究  
立教大學ラッゲージセンター紀要16

王 平  
一般教養における中國語入門教育の方法について―本學通信教育部の學生を対象としたスクーリング  
愛知産業大學短期大學紀要18 (2005年)

奥山 望  
日本語母語話者に對する中國語の音聲教育  
論叢46 (玉川大學文學部紀要)

甲斐 勝二  
(研究ノート) 福岡大學における中國語教育の現状と今後の教育構想について  
福岡大學人文論叢38 (1)

郭 修靜  
中國語授業におけるポットキャスト・音聲教材開發の試み―大阪女學院の一年生への実践から  
大阪女學院大學紀要3

小林葉麻子

片岡 昇  
中國語教育におけるサイバーレクチャの實施 (關西大學)

メディア教育研究3 (1) (メディア教育開發センター)

魏 鐘祺  
P C 語料庫活用舉隅 II  
明海大學外國語學部論集18

曲 明  
中國語教育におけるコミュニケーションのブ・アプローチの有効性について―外國語教授法研究―  
ポッドキャストで中國語  
漢字文獻情報處理研究7

清原 文代  
類動詞の「停和」の初探―以日本學生為例  
中國語教育4 (中國語教育學會)

栗原 祐美  
中國語學習のための高機能支援システム (バーチャル助手) の開發  
書像電子學會誌34 (2) (2005年)

浦野 劍明  
高機能パーチャル助手を具備した携帶電話版中國語學習システム  
電子情報通信學會論文誌D11 (情報・システム) 88 (2) (2005年)

吳 劍明  
中國人教師と日本人學生とのコミュニケーションの教室のフィールドワークから  
留學生教育11 (留學生教育學會)

楊 義  
いま、中國語教育に缺落するもの  
明海大學學院應用言語學研究紀要應用言語學研究8

高 濱愛  
中國語の學び方・教え方  
日中學院報380

興水 優  
返り点を正しく打つために―現行返り點法の要領―  
明星大學研究紀要日本文化學部14

興水 優  
中國語の學び方・教え方  
日中學院報380

古田島洋介

メディア教育研究3 (1) (メディア教育開發センター)

齋藤 貴志  
HSK (語法結構) についての考察  
中國語教育4 (中國語教育學會)

齋藤 貴志  
紹介・實用中國語レベル認定試験  
中國研究14 (麗澤大學中國研究會)

佐藤 修子  
コミュニケーション・アプローチを採用した中國語教材の開発  
北星學園大學共通科目の外國語教育

佐藤富士雄  
中國語教育規範化への熱き思い―書評・興水優著『中國語の教え方・學び方―中國語科教育法概説』  
東方302

史 有為  
基礎詞彙研究―中國語教學最低量  
明海大學學院應用言語學研究紀要應用言語學研究8

朱 鳳  
高校教科書における漢文教育の問題―漢文の訓讀を中心―  
京都ノートルダム女子大學研究紀要36

邵 艶  
近代日本における中國語教育制度の成立  
神戸大學發達科學部研究紀要12 (2005年)

園田 博文  
中國語會話書に於ける「へ」と「に」の使い分けについての一考察  
日本近代語研究4 (ひつじ書房) (2005年)

園田 博文

王孫 玉英  
初級段階における「ために」「ように」「には」の指導法―中國語の干渉から脱却をめざして―  
東アジア日本語教育・日本文化研究9

王孫 玉英

東アジア日本語教育・日本文化研究9

孫 寧寧	對外漢語教學中的語感培養	京都外國語大學 研究論叢 LXVI	翟長谷川 啓麗	(報告) 日中合同授業者日本人中國語學習者と中國系日本語學習者による	拓殖大學日本語 紀要16	濱口 英樹	中國語教育實踐報告	關西大學外國語 教育フォーラム 4 (2005年)
都木 有希子 小宮 恵 (他)	韻律の視覚化および矯正音聲を用いた中國語學習システム (日本放送出版協會 2005年)	教育テレビ「中國語會話」用發音練習ソフト ZIN(技研R&D 94(日本放送出版協會 2005年))	永井 鐵郎	中國語中級學習者の講讀授業者における中日翻譯の誤答について	中國語教育 4 (中國語教育學會)	水野 善寛	ポッドキャストで中國語(前篇・後篇)の e-Learning の導入と展開 Learning Management System の構築に向かつて	關西大學「J-セム 20 (2005年)
竹中佐英子	日本學生的漢語病句辨析	研究 2 (2005年)	永田 小繪	獨協大學外國語學部言語文化學科における通譯訓練法の應用	獨協大學外國語 教育研究 24	水野 善寛	大正大學における外國語教育(中國語教育)充實のための教材開發	大正大學學部・文 要 90 (2005年)
竹中佐英子	對日漢語漢字讀音教學法分析(二)	中國言語文化論叢 8 (東京外國語大學中國言語文化研究會)	中西 千香	パソコン・インターネットを活用した中國語教育	愛知大學情報メディアセンター 紀要 16 (1) (2005年)	平石 淑子	日本人學生の中國語有氣音の發話評價に及ぼす日本語閉鎖音の調音の效果	富山商船高等專門學校研究集録 39
玉置 重俊	2005年(二)第六回中國語研修報告書	北海道情報大學 紀要 17 (2)	中山 磨左文 池田 耀文 于田 權明 張應華 牧野 格子	神戸學院大學中國語教育の軌跡―中國檢定クラスの試み―	人文學部紀要 26 (神戸學院大學人文學部)	星野 朱美	九州沖繩地區における高校中國語教育の現状	北九州市立大學 外國語學部紀要 117
田村 祐之	姫路獨協大學における中國語(二)の状況とこれからの課題―	姫路獨協大學外國語學部紀要 19	名和 又介	中國語ヒアリングの課題	明日の外國語教育に向かつて III 言語文化教育研究センターのFD活動 (同志社大學)	堀地 明	松山大學中國語履修者の學習目的に對する意識に關する調査	言語文化研究 25 (2) (松山大學)
池 玉杰	對日本學生聲調誤讀現象之初步探討	長崎外大論叢 10	重野 素子 野松 淳	韻律と干渉(結び)―音聲教育の視點から―	日本語と日本語教育 34 (慶應義塾大學)	吳增子 孟野 子敏 春相 仁敏	授業報告…中國語とデジタルドキュメント作成を同時に訓練する試み―「外國語」と「情報リテラシー」を同じ授業で―	漢字文獻情報處理研究 7
趙 葵欣	日漢語學習者問句系統學習研究(日本における中國語疑問文學習の研究)	文學・言語學論集 13 (2) (熊本學園大學)	馬 眞	(講演記録) 中國語教師としての素養	文明 21、17 號 (愛知大學)	山崎 直樹		
張 美霞	日本學生漢日同形詞學習策略研究―對初級漢語水平的學生的調查	關西外國語大學 研究論集 83						

山下 喜代	中國人日本語習者の漢語習得に中心にして―	青山學院大學文學部紀要47
陳林葉 言材 秀娟 菁	語學教育現場からみた中國語發音の問題について	北九州市立大學外國語學部紀要116
楊施 志剛 英憲	中國語「場所詞」とその教授法について(その二)―「存現文」を視點にして―	藤女子大學紀要43 (I)
好竝 晶	「映像で學ぶ中國語」授業者實踐記録―30年代上海映畫を教材にして―	中國文化研究22 (大理大學國際文化學部)
羅 小東	試論中國語的寫作教學	語學教育研究論叢23 (大東文化大學語學教育研究所)
李 偉	中國語發音の難點及び教授法―日本語を母語とする學習者を對象に―	久留米大學外國語教育研究所紀要13
李 素楨	舊滿州における中國語檢定試験の研究―その規定、方法、言語の特徴について―	日中言語文化4 (櫻美林大學紀要)
劉 曉娟	「就要」の意味に關する提言―中國語教育の現場から―	日本アジア言語文化研究11 (大阪教育大學、2005年)
廖田 繼莉 光演	唐詩學習CALLシステムの研究と構築について	人間科學研究1 (廣島大學總合科學研究科)

渡邊 武秀 2004年度中國語學研究報告 八戸工業大學紀要24 (2005年)

學界展望 (語學)

平成十八年(二〇〇六)の一年間、中國語學關係の論者としてわれわれが集めたのは、單行本一〇六點、論文・書評など七八〇點ほどである。このなかには二〇〇五年刊行の文獻(第五十八集)展望未收のものに限る)も含まれている。ふたつの分類に重複して載せているものもあるが、それらはごく少數である。論文の著者を見ると、中國語學の場合中國人研究者の執筆したものがたいへん多い。これは、在日の中國人研究者、大學院における中國人留學生の増加によるもので、論文の題目は、日本語と中國語との對照研究に屬するものが多い。研究分野についていえば、従來の文字・音韻・語彙・語法・方言といった代表的分野のほか、「應用言語學」とよばれる近年の學際的な言語研究が盛んになり擴大している。應用言語學の研究分野とは、社會言語學、言語コミュニケーション、語用論、外國語教育學、教育工學、言語行動、言語接觸、言語問題・言語政策などで、今後この分野で論文を執筆する研究者が多くなっていくものと豫想される。従つて、中國語學部門の文獻資料も増え續けていくのは必然で、現在の文獻目錄の分類項目がそのままよいかどうか、検討を迫られることになるかも知れない。

以下、國內の出版物を中心に、われわれが直接目にしたもので關心がもたれたものに限って、簡単な紹介と概観を行つてみることにする。下記のコメントは、筆者佐藤昭のほかに、研究サークル「北九



州中國言語文化研究會」會員である苞山武義、一木達彦、秋山淳、平田直子の諸氏が協力し分擔して執筆したものである。

「總記」部門について。社會言語學の立場から書かれた著作として、中文礎雄『中國の言葉と文化・社會』がある。この書は、序論として社會言語學或いは言語社會學の簡単な紹介から始められており、この視點からの中國語研究であることがはっきりと意識して書かれていることが意義深い。ここではこれまでこの分野における中國での先行研究も簡単に紹介されている。内容は第一部、第二部と分けられる。第一部では中國文化がいか言語に反映されているかが分析されており、具體的には『三字經』、『千字文』などの傳統的識字教育に用いられた教材の實際の表現を多數挙げて、その中に儒教文化が色濃く反映されていることが述べられる。第二部では中國社會がいか反映されているかが分析してあり、現代中國の社會事情の説明の後、そのような社會事情がさまざまな歌に反映されていることが、大量のざれ歌の實例とともに紹介されている。現代中國の一面をことばの面から切り取り、データを収集した著作としても價值がある。つぎに、臺灣における言語事情を述べたものとして、臺灣の出版物であるが、松尾慎『臺灣における言語選擇と言語意識の實態』（群學出版有限公司、臺北、二〇〇六）がある。この書は、臺灣を多言語社會と位置づけ、臺灣に居住する人々、特に大學生の言語選擇、言語意識

を分析している。具體的には、歴史的な言語政策、これまでの先行研究が紹介された後、大學生を對象としたアンケートの結果が報告され、分析が行われている。實質的中國人社會である臺灣で、中國語である「國語」「ホロー（福佬・河洛）語」がどのように使用され、意識されているかを斷片的に知ることが出来る著作である。

近代東西言語文化接觸研究會（『日本中國學會便り』8参照）が発行する機關誌『或問』がある。この研究會の研究課題のひとつとして、歐米人の中國語學研究に關する研究というものがあ、その具體的成果として、翻譯・プレマール『中國語文注解』（千葉謙悟譯）、ルイ・バザン『中國語口語の一般原理に關する覺え書』（小野文譯）が『或問』8號、10號に收載されている。前者はラテン語からの、後者はフランス語からの翻譯で、19世紀以前の歐文（英語以外）の主要な基本的な中國語學研究書が、日本語譯で容易に讀めるようになったことは喜ばしいことで、學界を資すること多大である。倉田明子「パーゼル傳道會所藏の中國關連コレクションについて―附中國語文獻コレクション目録」は、スイスのパーゼル傳道會所藏の中國語文獻コレクションの全容を明らかにし、歴史學、客家研究、言語學などさまざまな分野に關わる資料を各分野の研究者に紹介するというもので、詳細な文獻目録を主體とした論文である。貴重な客家語文獻の所藏についてはすでに知られているが（橋本萬太郎「パーゼル訪書誌」『中國語學』二百十五號、一九七一年参照）、客家語

以外の中國語（官話、廣東語など）の辭典資料も收載されていることが目録から知られる。なお、パーゼル傳道會の資料を用いた言語學の視點からの研究書として、Chappell, Hilary and Christine Lamarre, *A grammar and lexicon of Hakka: historical materials from the Basel Mission Library* (Paris, 2005)があり、このなかに客家語文獻目録が収録されているという（筆者未見）。

「文字・訓詁」部門について。ここでは、單行本で眼についたもの三點を取上げる。まず成家徹郎『古代漢字の研究』（二〇〇五年）において、成家氏は、「商代では、甲骨文は特殊な文字だった。當時、毛筆文字が一般的な文字であって、書記はいつも毛筆で記録していた。だから、商代の文字を考える際は、いつも毛筆文字を念頭におく必要がある」と述べ、漢字史の研究において、現物はあまり残っていないが殷代の文字として毛筆文字を重要視すべきであることを強調する。先秦時代、とくに戰國時代は文字が廣く一般に普及していたと考えられるが、知識人や民間人が日常的にどのような文字を書いていたかについては、これまであまり知られることがなかった。福田哲之『戰國秦漢筆記文字の基礎的研究』第一章「諸子百家の時代の文字と書物」は、郭店楚簡・上博楚簡といった出土文獻の文字資料によって、當時の筆記文字の實態をある程度明らかにしている。福田氏は、楚簡の文字について「毛筆特有の弾力性を示し、かなりの速度で運筆されている」とし、のちの篆書・隸書との違いにふれつつ、その運筆の特

徴を説明する。張娜麗『西域出土文書の基礎的研究―中國古代における小學書・童蒙書の諸相』は、秦漢代の小學書「蒼頡篇」「急就篇」、唐代の童蒙書「注千字文」「新合六字千文」「蒙求」その他を研究對象として、膨大な西域出土文書に取り組み、詳細厳格な検討と精密着實な考察によって完成させた學術書である。とくに唐代の童蒙書について、可能な限り原書を復元し校異と注解を附している部分は、中國語學のみならずさまざまな研究分野に便宜を與えるものと考えられる。『白川靜著作集 別卷 金文通釋』の最終巻として『殷文札記』が出版されたが、著者白川氏はこの年九十六歳で逝去された。謹んで哀悼の意を表する。二〇〇五年立命館大學に白川靜記念東洋文字文化研究所が開設された。その目的は、白川靜「東洋文字文化」研究を基盤にした學問の繼承と發展をめざし、この「東洋文字文化」學の啓蒙と普及のための諸活動を行っていくということである（『立命館白川靜記念東洋文字文化研究所紀要』第一號「創刊の辭」による）。これからの研究所の順調な發展を願ってやまない。

「音韻」部門について。上古音關係の論者が三篇發表されている。そのなかでもっとも特筆すべきは、平山久雄氏の最新の研究「上古漢語の音素體系」であろう。これは、平山氏の多年の研究の今日までの到達點を示す集大成的な著作で、大きな價值をもつものである。氏は、上古音推定の基礎として先ず中古音の體系を示し、ついで上古音の體系を示し、そして上古から中古への音韻變化がどのように行われ

たかを表によって明快に説明する。その音韻變化（例外を含め）が一貫して矛盾のないものであれば、推定された上古音は妥當なものともみなされるわけである。今後、この推定上古音はほかの専門家によってさらなる吟味と検討が加えられ、より高度な音韻推定に發展していくことと思われるが、わが國でもこれを資料として活發な討論が展開されることが望まれる。平山久雄「河野六郎博士の「第一口蓋音化」説について」は、河野六郎が提出した學說である、上古漢語から中古漢語に至る間に起こった「第一口蓋音化」とよばれる音韻變化について、この變化規則の異例をなすものに對し一つずつ検討を加え、それらが河野學說の障害にならないことを論證したものである。古屋昭弘「儒教と中國語學―出土文獻と上古音」は、郭店楚簡や上博楚簡などの出土文獻にみえる「聲」と「聖」の通假、「處」と「暑」の通假、「氏」と「是」の通假の例を取り上げて、各ベアの二つの文字（一字目は牙喉音系列、二字目は舌音系列）はともに口蓋化した結果（その時期は戰國時代か）、發音が近似して通假が行われたのではないかと推測する。近年の出土文獻資料を使用した上古音研究として異色がある。日本漢字音の唐音資料を用いて吳方言の通時的研究を行ったものに、平田直子「宋末元初の北部吳語における中古澄母の音價とその音價變遷」がある。この論文は、鎌倉時代の禪宗系唐音資料の中に見出される例外的字音と、北部吳語における濁音字との對應關係について論じたもので、特徴的な字音が雙方の資料において對應關係をもつと

いう指摘は、鎌倉唐音が當時の吳方言に依據したとする學說をまた一つ肯定するものである。千葉謙悟「讀音の音韻對應上の例外について―日中言語文化交流の觀點から―」は、「礦」の讀音を、十九世紀から二十世紀前半にかけて出版された四十四種の文獻（歐文の字典資料が多數を占める）について詳細に調べ、その讀音變化 (gong から kuangへ) は吳語圏から他方言へ擴散したことによるものと主張。「礦」の讀音データを可能な限り廣範圍に丹念に収集し、それを四つの一覽表に分類整理して提示しているのは、きわめて明快なもので有益な仕事だと思われる。

「語彙」部門について。單行本では、「〜用語辭典」という題の實用的な書物が各種出版されている。貿易用語辭典、ビジネス用語辭典、パソコン用語辭典といった一般的なもののほかに、醫學用語辭典、中醫用語辭典、廢棄物用語辭典、警察用語辭典、軍事用語辭典などいろいろな分野のものがあられ、それぞれ實用書として役に立つと思われる。宮嶋純子「中國における「Buddha」の譯語」は、佛教に關する譯語の考察對象としていくつもあるなかの「浮屠」を取り上げ、今日 Buddha の譯語で定着している「佛（陀）」との比較から見えてくるその變容の過程をまとめている。これによると「浮屠」は「佛」と同じ Buddha の譯語でありながら、佛教經典などには現れないものの、中國における佛教の受容と勢力擴大、それに伴って増發する反發といった

佛敎史の流れと密接な関わりをもつ言葉のひとつであることを明らかにしている。

「語法」部門について。語法は依然研究が活発な分野で研究者人口ももっとも多く、毎年数多くの論文が発表されている。そのおびただしい著論文のなかから、今回は単行本を中心に概観することとする。『中國語の補語』（白帝社）は、タイトルが示すとおり、中國語の補語に関する論文集である。日本語論文6編、中國語論文5編が収められている。日本語論文6編のうち、方向補語に関するものが4編、結果補語、可能補語に関するものが各1編である。荒川清秀「坐進來」と「送回去」では、「坐」「站」「躺」十方向補語をAタイプ・ある状態でゝするもの（例…「坐過來」へ乗り物に乗った状態でやって来る）、「站過來」へ立った状態でやって来る）、Bタイプ…一體化したもの（例…「坐上來」へ乗り物に乗る）、「坐出來」へ出てきて座る）、Cタイプ…動作の結果何かを生み出すもの（「坐出來」へ座って何かを生み出す）、「躺出來」へ横になって何かを生み出す（何を生み出すかはコンテキストから読み取れる）の三タイプに分けている。丸尾誠「複合方向補語における「來／去」について」出現義・消失義という観点から「は複合方向補語における「來／去」の選擇にかかわる視點の導入、認識の仕方に「出現義・消失義」が如何に影響しているかについて考察したものであり、出現には「發見、接近、到達」などの段階、消失には「遠ざかっていき、やがて視界から消える」という段階が設定可能であること、派生義を

表す際に、そうした移動に対する認識が、動詞・形容詞との關係に於いて機能的に運用されていること指摘している。中國語論文5編のうち、結果補語及び結果義に関するもの2編、アスペクトの觀點から考察したものの1編、「得」が伴う補語に関するもの1編、状態補語「V得C」に関するものがある。張國憲「補語的句位義探索—關於非可控義」では結果補語はコントロールできないものであること、結果補語が規約的か非規約的かで、受動文、把構文、コピー構文が成立するかどうかに影響することを指摘している。于康「V下」的語義擴展機制與結果義は「下」が「上から下へ移動する」、「元の位置から離れる」、「移動の後、その移動後の位置または状態に置かれる」といった意味素性を持ち、これをベースに①動作主が下方に移動する、②動作主の身體姿勢の位置が變化する、③動作主の身體部位の位置が變化する、④對象が下方に移動する、⑤對象が元の位置から離れる、⑥對象が移動し、移動した對象は動作主に所有される、⑦對象は出現し、殘留するといった意味カテゴリーが擴張され、この七つの意味カテゴリーは何れも結果の意味を有することを指摘している。

劉綺紋「中國語のアスペクトとモダリティ」(大阪大學出版會)は「在」「着」も含め、「了」を中心に中國語のアスペクトとモダリティを考察したものである。劉氏の主張は「了」は「限界達成」を表すものであり、變化や文終止などはそれからの擴張用法であるというものである。同じくアスペクトに關す

る研究として沈力「漢語的基本事象與體貌標記」(『現代中國語研究』8)がある。沈論文はアスペクトに關して事象構造との關係から捕らえたものである。それによると先ず事象を不可變—永續事象—出現—消失と可變に分け、更に可變を有限—有限事象—出現、+消失と無限—①消失—可失事象—出現+消失、②出現—可現事象—出現—消失に分けている。この事象分類から「過」は「+消失+出現」事象を選択し、經驗を表す、「了」は「+出現」事象を選択し、實現を表す、「着」は「+消失」事象を選択し、状態維持を表すと主張している。空間關係に關する研究としては戴浩一「靜態空間關係在中文句法的呈現」(『現代中國語研究』8)がある。戴論文では英語の場所格が物體の存在場所と事象の發生場所を統語位置で區別しないのに對し、中國語の「在」は①動詞の前には現れない(事象發生場所)、②動詞の後には現れない(物體の動作終了後の位置)、③動詞の前と後に現れ、動詞の前に現れる時には事象發生の場所を表し、動詞の後に現れる時には、物體の動作終了後の位置を表す。④動詞の前にも後にも現れることが出来るが、意味の明確な違いはない、の四タイプに分けることが出来ることを指摘している。歴史語法の論文である、王周明「明清期における「有」字比較文の成立」は、「有」字比較文についての通時的研究を行ったものである。ここでは、「有」字比較文の歴史はそれほど長くないが、明清期の「有」字比較文の位置付けと現代語のそれとは異なる幾つかの特徴があることを指摘し、

「有」字比較文の成立の由来および變遷を論じている。

「方言」部門について。現代の漢語方言を扱った論文も年々増加傾向にある。一部は中國の研究者が寄稿したものであるが（おもに『開篇』『中國語研究』などに掲載）、日本人研究者の発表も増えている。張盛開氏の湖南省平江方言に關する記述的研究報告が四篇ある。そのなかの一篇「湖南平江各地方言の基礎語彙」と題する論文に、つぎのような興味深い記述が見える…（平江においては、北京官話を使う機會が少なく、方言の使用率は百分に近い。學校教育において、今でも北京官話教育が普及できていない。筆者の出身地の小學校・中學校にも、方言で講義を行う先生がいる。これが平江の人々が、ほかの方言地域の人より、文白異讀がよくできる原因の一つであろう。このほかに、平江では今でも昔ながらの塾「寺子屋」が存在する。塾の先生は一般に北京官話が話せないで、方言で『幼學』『詩經』などを教えている。中國では、民國時代までは全國各地に「私塾」があり、そこでは古典詩文が各地の方言讀書音で教授され音讀されていたと考えられる。そのような「私塾」がまだ湖南の平江地區に残っていたとは意外である。かつて全國でさまざまに行われていた方言讀書音は、今日全國一律の標準語（普通話）教育と普及によってほとんど失われたと思われるが、今でも平江地區では漢字の讀音として方言讀書音が伝わっているようであるが、それはどのようなものであろうか。完全に消失しないうちに、

ぜひ記録し、文化遺産として後世に残したいものである。遠藤光暁「子音連續と單子音の中間段階としての二重調音—青海省共和縣・興海縣のアムドチベット語と漢語方言を例として—」は、アムドチベット語に觀察される特異な子音の「二重調音」を考察したものであるが、論文の第四節では、現代漢語方言に行われる二重調音の例、ひとつは北京語の「兒化」の發音法、もうひとつは閩南語・廣東語の聲門閉鎖を伴う入聲韻尾の發音法をとりあげて、二重調音に對する独自の見解を示しており、われわれの音韻研究上のひとつの疑問を解いている。

「教育・學習」部門について。ここでは、はじめに興水優氏の中國語教育に關する一連の論述について取り上げる。興水氏は改めて紹介するまでもなく、長年日本の中國語教育界を牽引してこられ、現在は中國語教育學會の顧問として、今なお廣く活躍されている。その長年の豊富な經驗をもとに出版されたのが『中國語の教え方・學び方—中國語科教育法概説—』（二〇〇五年）である。本書は、中國語を教えることとはどういうことなのか、何をどう教えるべきなのか、また、學生にとっては、何をどう學ぶべきなのかを主要テーマに、大學や高校における中國語教育の現状、中國・臺灣における外國人向け中國語教育、發音・文法・語彙の學習内容、さらにリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの4技能の習得と評價について述べられている。このうち、文法の學習内容については「初級段階の文法ガイドライン」として、初級段階で學習すべき

文法項目を提案している。このガイドラインは、二〇〇七年三月、興水氏を代表とした中國語教育學會學力基準プロジェクト委員會によって「中國語初級段階學習指導ガイドライン」文法項目表と學習語彙表として正式に發表されることになる。ここでいう初級段階とは、大學での第2外國語で毎週二回、2年間を通じて學んだ場合の、二〇〇時間（實質一六〇時間）の課程を前提としている。ガイドラインの項目をみると、學習内容が案外少ないようにも思えるが、實はこれで十分なのである。しかも二百時間もかけていいわけだから。そこで改めて初級クラスの授業を思い返してみると、1年目に扱う文法項目が多すぎていたのではないかと思えてくる。確かに、現行の初級會話の教科書であっても、發音編が終わると、あとは過剰な文法説明が續く。高校でも二〇〇四年度には五百校以上で中國語を教えるようになったという。國際關係を背景にして、民間の専門學校や企業内での研修なども含めて、中國語學習者が増加しているにもかかわらず、このような「量」の變化に對して、中國語教育の「質」の變化がともなっていないとして、興水氏は「いま、中國語教育に脱落するもの」と題する論文の中で中國語教育のいくつかの問題点を指摘する。まず、不適切な教員配置の問題。次に教科書の問題。教科書の問題については、會話體教科書の限界、體系的教科書の必要性について言及する。さらに、日本人に對する中國語の學習指導要領の必要性、話しことばと書きことばの隔たりについて述べる。教科書の問題については

「オーラル・コミュニケーションの指導という視点から、現行の會話體教科書を考え直す必要がある。少なくとも、たんなる會話體ではなく、會話教科書としての設計をしなければならない。現行の會話體教科書では、おそらく日常的な會話能力養成はむずかしい。結局は、文法譯讀の教材になってしまふであろう」と指摘する。第2外國語として中國語を教える際には、まずは中國語を話すことの抵抗をなくし、楽しさや喜びを學生に持ってもらい、ことばを通して中國社會に興味と關心を持ってもらうことが、筆者の教育經驗上の實感であり目標であるように思われる。

中國語教育とインターネットという観点からみると、昨年は大學におけるポッドキャストによる中國語教育の實践を紹介したレポートが目につく。清原文代「ポッドキャストで中國語」〔漢字文獻情報處理研究〕7)、水野善寛「ポッドキャストで中國語」〔東方〕308・309)などがその例である。podの普及で手軽に自由に視聽できる利便性と、継続的な學習が欠かせない外國語學習に、一旦登録すれば自動的に配信されるポッドキャストは相性が非常によい。このためポッドキャスト番組を實際に製作・配信している大學が出てきていることをレポートで紹介している。教室での學習とポッドキャスト番組を連動させることにより學習効果を高めることなどが期待できるとのことである。この他にも、ポッドキャストの使い方は、アイデア次第で使い方はいく様にも廣がっていくということで、いくつかの大學でポッ

ドキャストを使った新しい中國語教育への取り組みが始まっていることが知られる。インターネットと教育に関連して、山崎直樹「授業報告・中國語テキストの構造化とデジタルドキュメント作成を同時に訓練する試み」〔漢字文獻情報處理研究〕7)は興味深い報告である。大學院生を対象として、中國語の運用能力を高める授業と、情報處理技術の知識やスキルを習得する授業を同時に行ったというものがある。大學院レベルにおいて、中國語の運用能力の向上(中國語の各種文書の作成)、情報リテラシーのスキルを習得することはいまや必須であるといっても過言ではない。この意味において、このような授業が大學院の授業カリキュラムに組み込まれていくことは望ましいことであろう。

(佐藤 昭)